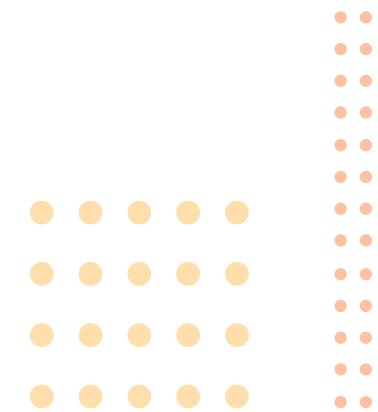


'24



藤田医科大学
FUJITA HEALTH UNIVERSITY



全学共通

目 次

大学編

建学の精神と沿革

建学の精神	1
創設者藤田啓介先生の略歴	2
学長からのメッセージ	3
学校法人藤田学園の沿革	4
藤田学園歌	6

学生生活

1 学生生活の手引き	7
2 学生生活における基本的マナー	12
3 全学学生掲示板	14
4 就職支援（キャリア支援係）	14
5 学生相談室	15
6 障がい学生への支援（合理的配慮）	16
7 一時休憩室	17
8 藤田学園健康管理部	17
9 学生診療受診体制及び手順	18
10 安全運転の心得	19
11 飲酒について	21
12 喫煙禁止・受動喫煙防止	22
13 薬物乱用防止に関する注意	23
14 キャンパス・ハラスメントの防止・対策	24
15 藤田医科大学ソーシャルメディア利用ガイドライン（学生向け）	30
16 ブラックバイトについて	31
17 海外渡航に際しての注意	33
18 保険・学生専用総合補償プラン	35
19 出校制限	36
20 インフルエンザに関する注意	37
21 新型コロナウイルス感染症について	38

奨学金制度	41
-------	----

高等教育の修学支援新制度	43
--------------	----

アセンブリ教育実施要領	44
-------------	----

施設案内

1 図書館	53
2 体育施設、フジタホール	54
3 地域連携教育推進センター	55
4 国際交流推進センター	55

防災について

1 藤田医科大学における学生の地震防災に関する基本的行動指針	56
2 異常気象時における授業の取り扱いについて	57
3 落雷に対する注意	57

施設配置図

キャンパス案内図	59
藤田医科大学へのアクセス	61
藤田医科大学 ばんたね病院へのアクセス	62
藤田医科大学 七栗記念病院へのアクセス	62
藤田医科大学 岡崎医療センターへのアクセス	63

<建学の精神>

独創一理

私たちの創造力を人々のために
Our creativity for the people

学校法人藤田学園創設者

故 総長 藤田啓介先生



略歴

- 1925年（大正14年）岡山県に生まれる（本籍 愛媛県新居浜市）
1948年（昭和23年）名古屋帝国大学医学部卒業
1960年（昭和35年）岩手医科大学助教授
1960年（昭和35年）医療法人静心會桶狭間病院理事長に就任
1963年（昭和38年）愛知学院大学歯学部教授
1964年（昭和39年）学校法人藤田学園設立、理事に就任
1966年（昭和41年）名古屋衛生技術短期大学開学、学長に就任
1967年（昭和42年）学校法人藤田学園理事長に就任
1968年（昭和43年）名古屋保健衛生大学（現藤田医科大学）開学、学長に就任
1989年（平成元年）学校法人藤田学園総長に就任
1995年（平成7年）6月11日逝去

主な研究 生化学 アロエの薬理作用に関する研究、腫瘍マーカーの研究、精神分裂病等の病態生化学

学長からのメッセージ

学長 湯澤由紀夫



この学生便覧は、新入生および在学生の皆さんのが藤田医科大学で今後の学生生活に必要な事柄が収録されています。充実した学生生活を送るための手引書として、是非活用してください。

藤田医科大学は、医学部・医療科学部・保健衛生学部の3学部、医学研究科・医療科学研究科・保健学研究科の3研究科から構成された医療系総合大学です。建学の精神「独創一理」のもと、質の高い教育と医療の進歩につながる研究に情熱を注いでいます。また、学部・学科の垣根を越えたアセンブリ教育でチーム医療を学び、他職種と連携のできる医療人の育成をしています。

大学教育改革の取り組みを評価する「私立大学等改革総合支援事業」に2023年度も選定されており、教育、研究、社会貢献、産学連携の4領域全てに選定されたのは全国で8大学のみであり、4年連続選定は医療系大学では本学のみとなり、教育の質を向上させる本学の取り組みが評価されたものと考えております。

また、本学で学ぶ強みは、4つの大学病院群での高度な臨床での実習にもあります。臨床を実践し学びの場である大学病院では、2021年12月にJCIを再認証し、国際水準の医療が推進されています。基幹災害拠点病院に加え、高度救急救命センターの認定を受けた現在、医

療救護活動の要となる役割を果たすべく、防災士資格の全学生取得も順調に進んでいます。2024年2月にはドクターヘリも配備され、本学を中心とした広い地域での防災の取り組みをさらに充実させていきます。

研究では、「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の私設整備事業」に採択されました。精神・神経病態研究拠点の形成として、トップレベルの双方向性トランスレーショナル研究を推進しています。

大学・病院全体の医療情報システムの改革も重要な課題です。国の「医療DX2030」に基づく世界標準の医療データ連携に関しては、医療情報の効果的な二次利用を目標に4病院の約150万症例データを活用する世界標準の基盤形成に取り組んでおり、海外とのデータ連携や災害対策をめざし、デジタル庁や千葉工業大学、IBMやAWSと連携し日本医療のデジタル化を牽引していきます。

私たちは、患者第一の医療を推進することのできる人材育成はもちろんとして、科学的思考をもち、多くの社会課題に取り組めるグローバルな新医療人の育成を目指しています。私たちと一緒にALL FUJITAで一丸となって歩んでいきましょう。



学校法人藤田学園の沿革

- 1964(昭和39)年9月24日 学校法人藤田学園設立、同時に南愛知准看護学校設置認可、同年10月開校
- 1965(昭和40)年4月1日 南愛知准看護学校4月入学に変更
- 1966(昭和41)年1月25日 名古屋衛生技術短期大学衛生技術科設置認可、同年4月開学
- 1966(昭和41)年6月4日 名古屋医学技術専門学院設置(夜間)厚生省が国家試験受験資格を認め、衛生検査技師養成所として指定、同年10月開学
- 1968(昭和43)年3月15日 名古屋保健衛生大学衛生学部衛生技術学科、衛生看護学科設置認可、同年5月開学
- 1968(昭和43)年3月21日 南愛知高等看護学院設置(厚生省指定)、同年4月開校
- 1971(昭和46)年10月1日 藤田学園名古屋保健衛生大学ばんたね病院(第2教育病院)開設
- 1971(昭和46)年11月22日 名古屋保健衛生大学医学部医学科設置認可、1972(昭和47)年4月開学
- 1972(昭和47)年4月1日 名古屋保健衛生大学総合医科学研究所 開設
- 1972(昭和47)年11月1日 藤田学園名古屋保健衛生大学病院(第1教育病院)開設許可、1973(昭和48)年5月開設
- 1973(昭和48)年12月15日 藤田学園生薬研究塾開所 施設全体を「七栗学綜」と命名
- 1978(昭和53)年3月24日 名古屋保健衛生大学大学院医学研究科 形態系、機能系、保健衛生系、内科系、外科系各専攻課程設置認可、同年5月開学
- 1979(昭和54)年4月5日 名古屋保健衛生大学救命救急センター開設
- 1983(昭和58)年2月19日 南愛知准看護学校(各種学校)と南愛知高等看護学院を統合して藤田学園看護専門学校と改称、専修学校として設置認可
- 1983(昭和58)年4月1日 藤田学園看護専門学校 医療専門課程看護科、医療高等課程看護科開校
- 1984(昭和59)年6月1日 大学、短期大学の名称をそれぞれ藤田学園保健衛生大学、藤田学園衛生技術短期大学に変更、名古屋医学技術専門学院の名称を藤田学園医学技術専門学院に変更、藤田学園名古屋保健衛生大学病院の名称を藤田学園保健衛生大学病院に変更、藤田学園名古屋保健衛生大学ばんたね病院の名称を藤田学園保健衛生大学ばんたね病院に変更
- 1984(昭和59)年12月27日 藤田学園衛生技術短期大学専攻科衛生技術専攻設置認可、1985(昭和60)年4月開学
- 1986(昭和61)年1月30日 総合コンピュータプログラミング専門学校工業専門課程設置認可、同年4月開校
- 1986(昭和61)年12月20日 藤田学園保健衛生大学ばんたね病院の名称を藤田学園保健衛生大学坂文種報徳會病院に変更
- 1986(昭和61)年12月23日 藤田学園保健衛生大学衛生学部診療放射線技術学科設置認可、1987(昭和62)年4月開学
- 1987(昭和62)年3月18日 藤田学園保健衛生大学大学院医学研究科分子医学系専攻課程設置認可、同年4月開学
- 1987(昭和62)年4月1日 藤田学園医学技術専門学院4年制度に変更
- 1987(昭和62)年4月20日 藤田学園保健衛生大学七栗サナトリウム開設、「七栗学綜」の呼称を「七栗校地」に変更
- 1991(平成3)年4月1日 大学、短期大学、看護専門学校、専門学校の名称をそれぞれ藤田保健衛生大学、藤田保健衛生大学短期大学、藤田保健衛生大学看護専門学校、藤田コンピュータ専門学校に変更、藤田学園保健衛生大学病院の名称を藤田保健衛生大学病院に変更、藤田学園保健衛生大学坂文種報徳會病院の名称を藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院に変更、藤田学園保健衛生大学七栗サナトリウムの名称を藤田保健衛生大学七栗サナトリウムに変更
- 1992(平成4)年3月25日 藤田保健衛生大学リハビリテーション専門学校医療専門課程理学療法科・作業療法科設置認可、同年4月開校
- 1992(平成4)年12月21日 藤田保健衛生大学短期大学専攻科衛生技術専攻を廃止、臨床工学技術専攻を設置認可、1993(平成5)年4月開学
- 1995(平成7)年10月1日 生薬研究塾は総合医科学研究所に編入され、「藤田記念生薬研究塾研究部門」となる
- 1995(平成7)年12月22日 藤田保健衛生大学短期大学医療情報技術科設置認可、1996(平成8)年4月開学
- 1996(平成8)年1月31日 藤田コンピュータ専門学校 工業専門課程 学生募集停止
- 1997(平成9)年4月24日 藤田保健衛生大学看護専門学校 医療高等課程 学生募集停止
- 1997(平成9)年5月16日 藤田コンピュータ専門学校廃止
- 1997(平成9)年10月29日 藤田学園医学技術専門学院 学生募集停止
- 1998(平成10)年4月1日 藤田記念生薬研究塾研究部門は藤田保健衛生大学藤田記念生薬研究所に改組
- 1999(平成11)年6月30日 藤田保健衛生大学看護専門学校 医療高等課程 廃止
- 1999(平成11)年12月9日 藤田保健衛生大学看護専門学校 医療専門課程 2年課程学生募集停止
- 1999(平成11)年12月14日 藤田保健衛生大学看護専門学校 医療専門課程 3年課程開設、2000(平成12)年4月開校

2000(平成12)年12月21日 藤田保健衛生大学大学院保健学研究科保健学専攻(修士課程)設置認可、2001(平成13)年4月開学

2001(平成13)年3月30日 藤田学園医学技術専門学院廃止、臨床検査技師養成所としての指定取り消し

2002(平成14)年4月1日 藤田保健衛生大学看護専門学校 医療専門課程 2年課程 廃止

2003(平成15)年4月10日 藤田保健衛生大学衛生学部リハビリテーション学科理学療法専攻・作業療法専攻設置届出、2004(平成16)年4月開学

2004(平成16)年4月1日 藤田保健衛生大学藤田記念生薬研究所は藤田保健衛生大学藤田記念七栗研究所に改称

2004(平成16)年5月17日 藤田保健衛生大学リハビリテーション専門学校 医療専門課程 学生募集停止

2005(平成17)年2月1日 藤田保健衛生大学中部国際空港診療所開設

2007(平成19)年3月31日 藤田保健衛生大学リハビリテーション専門学校医療専門課程廃止

2007(平成19)年4月24日 藤田保健衛生大学医療科学部臨床工学科設置届出、2008(平成20)年4月開学

2007(平成19)年7月3日 藤田保健衛生大学短期大学 衛生技術科、医療情報技術科 学生募集停止

2007(平成19)年12月3日 藤田保健衛生大学医療科学部医療経営情報学科設置認可、2008(平成20)年4月開学

2008(平成20)年4月1日 藤田保健衛生大学衛生学部の名称を医療科学部に変更し、衛生学部の衛生技術学科、衛生看護学科、診療放射線技術学科の名称をそれぞれ医療科学部の臨床検査学科、看護学科、放射線学科に変更

2009(平成21)年4月20日 藤田保健衛生大学短期大学 専攻科臨床工学技術専攻 学生募集停止

2010(平成22)年5月21日 藤田保健衛生大学短期大学 廃止

2013(平成25)年2月1日 藤田保健衛生大学地域包括ケア中核センター(医療・福祉業)開設

2014(平成26)年10月31日 藤田保健衛生大学大学院保健学研究科医療科学専攻(修士後期課程)設置認可、2015(平成27)年4月開学

2016(平成28)年1月1日 藤田保健衛生大学七栗サナトリウムの名称を藤田保健衛生大学七栗記念病院に変更

2017(平成29)年3月31日 藤田保健衛生大学藤田記念七栗研究所 閉所

2017(平成29)年4月1日 学内研究組織再編により藤田保健衛生大学藤田記念七栗研究所を藤田保健衛生大学研究支援推進センターに統合

2017(平成29)年12月27日 藤田保健衛生大学大学院医学研究科医学専攻(修士課程)設置届出、2018(平成30)年4月開学

2018(平成30)年4月18日 藤田保健衛生大学 医療科学部看護学科、リハビリテーション学科、臨床検査学科、臨床工学科、医療経営情報学科学生募集停止

2018(平成30)年4月24日 藤田保健衛生大学 保健衛生学部看護学科、リハビリテーション学科設置届出、2019(平成31)年4月開学
藤田保健衛生大学 医療科学部医療検査学科設置届出、2019(平成31)年4月開学

2018(平成30)年10月10日 大学、専門学校の名称をそれぞれ藤田医科大学、藤田医科大学看護専門学校に変更、藤田保健衛生大学病院の名称を藤田医科大学病院に変更、藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院の名称を藤田医科大学ばんたね病院に変更、藤田保健衛生大学七栗記念病院の名称を藤田医科大学七栗記念病院に変更

2019(平成31)年3月5日 藤田医科大学看護専門学校 学生募集停止

2019(平成31)年4月1日 学内研究組織再編により藤田医科大学研究支援推進センターを藤田医科大学研究支援推進本部に名称変更

2019(令和元)年11月19日 藤田医科大学大学院医学研究科医科学専攻(修士課程)設置認可、2020(令和2)年4月開学

2020(令和2)年4月1日 藤田医科大学七栗記念病院訪問事業部開所

2020(令和2)年4月7日 藤田医科大学岡崎医療センター 開設

2020(令和2)年8月1日 藤田医科大学地域包括ケア中核センター幸田岡崎サテライト 開所

2021(令和3)年4月1日 藤田医科大学地域包括ケア中核センター名古屋緑サテライト 開所藤田医科大学高度救命救急センター指定

2022(令和4)年3月31日 藤田医科大学看護専門学校 廃止
藤田医科大学 医療科学部 臨床検査学科、臨床工学科、医療経営情報学科 廃止

2022(令和4)年8月31日 藤田医科大学大学院医学研究科病院経営学・管理学専攻(専門職学位課程)設置認可、2023(令和5)年4月開学

2023(令和5)年7月26日 藤田医科大学大学院 医療科学研究科医療科学専攻(修士課程・博士後期課程)設置届出、2024(令和6)年4月開学
保健学研究科保健学専攻(博士後期課程)設置届出、2024(令和6)年4月開学

2023(令和5)年8月30日 藤田医科大学大学院 保健学研究科医療科学専攻(博士後期課程) 学生募集停止

2023(令和5)年10月2日 藤田医科大学東京 先端医療研究センター 開所、藤田医科大学 羽田クリニック 開院

藤田学園歌

山上 路夫 作詞
藤田 啓介 訳詞
A. Hawthorne 作曲
松永 英雄 作曲
藤田 啓介 編曲

A

のびーのみなみ つらなるおかーに
りそーにみてる われらがほこーうわ
かきいのちにたくされし あいとまことの むげんのしめい
ほこーらかーに にないてたてーる
われらがすすむ みちを みーよ
ふじたがくえんふじたふじたふじたふじたふじた
ふじたがくえんふじたふじたふじたふじたふじた

B

かみのみつかい よ おしぇやさしきー
きほうさとしつ つ すくいささやくー
くらきくもよあけ あらしやむまでー
あめもすぎされば あすははれなんー
さーさやくーきほうのこーえ よ なーげきぬーわれ
にーえみをーさーさやくーきほうのこーえ よ
なーげきぬーわれにーえみをーをー

一、濃尾の南 連なる丘に

理想に充てる われらが母校
若き生命にたくされし
愛と誠の 無限の使命
誇らかに担いて立てる
われらが進む 道を見よ

* 藤田学園 藤田 藤田 藤田 藤田 藤田
* 藤田学園 藤田 藤田 藤田 藤田 藤田

神の御使よ 教えやさしき
希望さとしつつ 救いささやく
暗き雲よ明け 嵐やむまで
雨も過ぎ去れば 明日は晴れなん
ささやく希望の声よ 嘆きぬわれに笑みを
ささやく希望の声よ 嘆きぬわれに笑みを

二、今なお深く歴史の蔭を

たたえる緑 われらが母校
若き力が 新しき
明日に輝く 歴史を創る
高らかに 聞こえる歌は
未来に向かい うたう歌

※繰り返し
薄明たそがれて 騒ぎはるかに
日暮れ深まりつ 星はきらめく
夜のとぼりになぜ 心沈むや
やみ夜過ぎたれば 夜明け近からん
ささやく希望の声よ 嘆きぬわれに笑みを
ささやく希望の声よ 嘆きぬわれに笑みを

三、尾張の大地 三河の海面

あかつき昇る われらが母校
若き希みは いつの日も
強く明日を めざして進む
大空の その涯までも
われらの夢は 駆けりゆく

※繰り返し

学生生活

1 学生生活の手引き

1. 学生証（名札）（身分証明書及び名札として利用）

本学の学生には、学生証（名札）が交付されます。この学生証（名札）は、その身分を証明するために必要なばかりでなく、その他学生生活を円滑に過ごすために必要です。汚損、紛失をしないよう注意してください。

学内では常時、学生証（名札）を着用することが義務付けられています。大学病院を有する本学キャンパスは、学校であると同時に公共医療機関でもあり、病院内では学生にも医療機関の構成員としての態度・モラルが要求されます。

以下に記載した「学生証（名札）着用の目的と意義」をよく理解して、学内では、学生証（名札）を着用してください。

【学生証（名札）着用の目的と意義】

（1）本学学生としての自覚と責任感の涵養

学生は本学の敷地・建物内において、学生証（名札）の着用を通じて本学学生としての立場を自覚し、且つ公に自らの個人名を提示して責任ある行動をとることが求められています。

（2）安全管理上の必要性

本学の敷地・建物内における安全管理上の観点（不審者・侵入者への対応、盗難防止、人身の安全等）からも、学生証（名札）の着用により身分を明確にすることが求められています。

（3）病院の環境向上と患者からの信頼獲得

本学病院内において学生証（名札）を着用して、自らの所属と個人名を明確にすることが、患者・家族関係者の信頼感・安心感を高め、病院のアメニティを向上させることにつながります。

※上記に従い、学内では常時、学生証（名札）を着用してください。

【学生証（名札）の取扱い】

- （1）学生証（名札）は本学学生としての身分を証明するものですから、常に着用してください。
- （2）学生証（名札）を紛失すると悪用されるおそれがありますので、十分注意してください。万一紛失したときは、ただちに各学部学務課に届け出してください。
- （3）紛失などのため学生証（名札）の再交付を受ける場合は、各学部学務課に届出書を提出したのち、学生証（名札）再交付願に所定事項を記入して再交付を受けてください。
- （4）各種証明書や学割の交付を受ける時等は、必ず学生証（名札）を呈示してください。
- （5）学生証（名札）は、卒業または退学などにより学生の身分がなくなると同時にその効力を失います。従って、これらの場合にはただちに各学部学務課に学生証（名札）を返還しなければなりません。なお、卒業時には学生証（名札）と引き換えに卒業証書・学位記が授与されますので、それまで必ず携帯してください。

2. 学生への連絡

大学の行事、学生生活関係、授業関係等学生に周知させる事項は学生ナビの掲示によって行っています。

1日に最低2回（朝・夕）は掲示を確認する習慣を身に付けてください。掲示の見落としによる不利益は学生本人の責任です。

なお、必要に応じて、メール等により連絡を行う場合があります。

3. スクールバス通学

本学と名鉄前後駅を約20分で結ぶスクールバスを2021年度から運行しています。

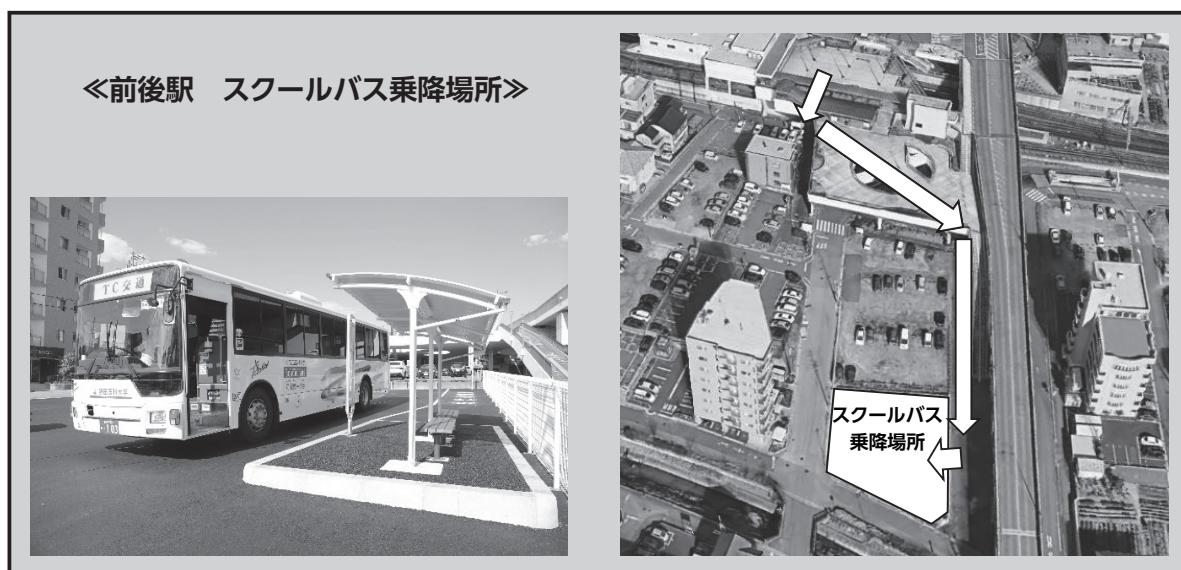
交通状況により遅延する場合があります。時間に余裕を持った乗車をしてください。

乗車方法：利用者は乗車時、下車時に学生証（名札）をカードリーダーにかざし乗車登録

利用料金：1乗車160円、年2回口座振替にて引き落とし

- 運行日、ダイヤはポータルサイト、掲示板を参照してください。

- 大学停留所 教職員第6駐車場内「キャンパス案内図」(P59～P60) 参照



4. 自転車・バイク通学

通学目的として自転車又はバイク（原動機付自転車含む）の利用を希望する学生は、学生支援課へ所定の書類を提出して「二輪車許可ラベル」を受け取り、駐輪・駐車する自転車又はバイクに貼付してください。駐輪・駐車場は「キャンパス案内図」(P59～P60) を参照し、指定の駐輪・駐車場を利用して下さい。

※登録は入学後1回とし、申請内容の変更等の場合には、その都度申請してください。

また、使用しなくなった自転車・バイクは駐輪場へ放置せずに、持ち帰る等の処分を各自で必ず行ってください。

5. 自動車通学

学生駐車場の利用は原則として医学部在籍3年目以上、医療科学部、保健衛生学部在籍2年目以上の学生に許可します。通学目的としての利用を希望する学生で、「学生駐車場利用許可願」に記載された事項を遵守できる者。

※継続利用希望者は毎年更新手続きが必要です。学生支援課の案内に従って手続きをしてください。

学生支援課（大学5号館2階）にて利用申請を行い許可が下りると、学生証（名札）にて駐車場ゲートを通過できるよう登録がされます。利用料金は所定の金額を口座引き落としにて徴収します。

悪質な違反車両は厳しく処罰します。

自転車・バイク・自動車に関する注意事項

- ① 学内・学外においてバイク（原動機付自転車を含む）の交通事故が多発していますので、自動車損害賠償責任保険の加入の確認及び自動車損害賠償責任保険では補えない部分を補償する任意保険への加入を原則とします。また交通ルールを遵守し、安全運転に気をつけてください。万が一、事故を起こしたり事故に遭ったりした場合は、まず救急車を呼び、人命確保に努めてください。事故直後は目立った外傷がなくても、後々、後遺症が出たりすることもあります。どんな些細な事故であっても必ず警察に連絡し、相手の連絡先等を確認してください。
- ② 自動車通学で学生駐車場を利用する学生は、警備員の誘導に従い利用してください。特に朝の登校時は、周辺道路が混雑しています。時間にゆとりをもって登校してください。
- ③ 最近、駐車違反車両が非常に多くなり、周辺の住民や患者さんに迷惑をかけています。無断駐車、迷惑駐車は絶対にしないこと。患者さま用駐車場（第1、第2、第3駐車場）の利用、無断駐車、迷惑駐車は絶対にしないでください。悪質な違反車両は、厳しく処罰します。

6. 交通事故に対する処置

交通事故に遭った場合、交通事故を起こした場合は、どんな事故であっても必ず警察に連絡してください。また、その後速やかに「交通事故報告書」を学生支援課に提出してください。万一に備えて任意保険に必ず加入してください。

7. 事故の報告

学生が、正課中及び課外活動中、通学途上に負傷した時、もしくは事故に遭った場合は、速やかに「事故報告書」を学生支援課に提出してください。

8. 捨得物・紛失物

本学キャンパス内で落とし物を捨てた場合や物を紛失・盗難等にあった場合は、学生支援課（大学5号館2階）へ申し出て、「遺失・紛失届」または「盗難等被害届」を提出してください。

窓口名称	場 所	電話番号
学生支援課	大学5号館2階	0562-93-9442

9. 通学証明書の発行による定期券の購入

通学定期券は学生各自で、最寄りの駅で購入してください。

1 名鉄・近鉄・JRの通学定期券を利用する学生

ガイダンスの際に在籍シールをお渡しします。在籍シールは年1回更新（有効期限は翌年3月31日）が必要となりますので、必要事項を記入し、学生証の裏面に貼付して利用してください。

- ① 定期券の購入月数の単位は1か月・3か月・6か月と定められています。
- ② 通学区間は現住所の最寄りの駅から本学までの最短距離となっています。アルバイトのために通学定期券を購入しようとする人がいますが、通学定期券は通学の目的以外には使用できませんので注意してください。

2 名古屋市交通局（市バス・地下鉄）の通学定期券を利用する学生

交通局指定の定期券購入申込書に必要事項を記入し、学生証を提示して利用してください。

- ① 定期券の購入月数の単位は1か月・3か月・6か月と定められています。
- ② 区間の制限なく希望する経路の通学定期券の購入が出来ますが、他社（他の交通機関）との連絡定期券については、在籍シールが必要となり、通学目的以外には、使用出来ません。

3 名鉄・近鉄・JR・名古屋市交通局（市バス・地下鉄）以外の交通機関の通学定期券を利用する学生

在籍シールで通学定期券が購入可能かどうかを利用する交通機関に確認するか、学務課（大学3号館1階）に相談してください。購入可能な場合は、在籍シールに必要事項を記入し、学生証の裏面に貼付して利用してください。

在籍シールで通学定期券が購入できない交通機関については、通学証明書を無料で発行しますので、通学証明書交付願を記入し、学務課に提出してください。

- ① 定期券の購入月数の単位は1か月・3か月・6か月と定められています。
- ② 通学区間は現住所の最寄りの駅から本学までの最短距離となっています。アルバイトのために通学定期券を購入しようとする人がいますが、通学定期券は通学の目的以外には使用できませんので注意してください。

別途、通学証明書の交付を希望するときは、各学部の学務課に所定の証明交付願（様式23）を提出してください。（学部ポータルサイトより「諸規程」の学生心得規程を参照してください。）

10. 学生旅客運賃割引証（学割証）の発行

学割（学校学生生徒旅客運賃割引証）は、帰省、旅行等の目的のためJRを利用するときに使用できます。

1 交付要領

証明書自動発行機で手続きをし、学割証の交付を受けてください。1回の申し込み枚数は2枚以内で、年間8枚まで発行できます。※年間…4月1日～翌年3月31日

2 割引条件・割引率

割引条件……普通旅客運賃片道100kmを超える区間の利用

割引率……鉄道、航路、その他の連絡線（いずれも2割）

3 注意事項

他人名義の学割を使用しようとした場合、使用者は2倍相当額の運賃を支払うことになり、一定期間の発行が停止されます。さらに、在学する大学は学割の停止処分を受けることがありますので、絶対に不正使用をしないでください。

使用に当たっては学割証の裏面の注意事項を必ず守ってください。

11. 健康診断

健康診断は本学健康管理部の指導の下、以下のとおり検査を実施しています。（）内は、実施予定です。

- ① 胸部X線検査……全学生（3～7月）
- ② 心電図検査……1年生全員（4～7月）
- ③ 結核菌感染検査（T-SPOT）……1年生全員（4～7月）
- ④ 尿検査……医療科学部・保健衛生学部4年生全員（4～5月、3年生3月）
- ⑤ 血液検査……1・2年生全員（4～7月）、医療科学部・保健衛生学部の3・4年生
検査の結果、異常所見が認められたときは、再検査を受けるよう本人に通知します。

12. 学園施設の使用について

「施設案内」（P53～P55）を参照してください。

2 学生活における基本的マナー

1. 学園内のマナー

- ・歩きスマホは禁止です。
- ・病院内、周辺通路においては周囲の迷惑にならないよう並列歩行や大きな声で話さないよう注意してください。
- ・キャンパス内は全面禁煙、キャンパス外でもポイ捨てなど喫煙による迷惑行為は絶対にしないでください。
- ・教室は常に整理整頓に心がけ、私物を放置しないでください。
- ・ゴミは指定場所へ確実に分別して捨ててください。
- ・食堂では割り込み、席取りをしないでください。
- ・貴重品は各自の責任において管理してください。
- ・本学の敷地、建物内では指定の名札を着用してください。
- ・身だしなみは常に清潔を保ち、医療を志す学生らしく挨拶も適切にしてください。

2. 通学時のマナー

(1) 公共交通機関を利用した通学

- ・お年寄りや身体の不自由な方に席を譲るようにしてください。
- ・出入り口付近に立ち止まらないでください。
- ・「学生がバスの中で騒がしい」といった、バス利用者からの苦情が、過去に何回もありましたので、車内での声の大きさや内容について十分に気をつけてください。

(2) 自動車、バイク、自転車を利用した通学

- ・道路交通法を遵守してください。
- ・指定の駐車場、駐輪場を利用して下さい。利用には所定の許可が必要です。
(指定場所は、キャンパス案内図 (P59～P60) 参照)
- ・安全運転に心掛けてください。(加害者、被害者にならないよう気をつけてください。)
医学医療系学生が罰金刑以上の刑を受けた場合(酒気帯び運転は罰金刑です!)国家試験に合格しても免許が交付されない、もしくは交付が一定期間停止があります。

3. 授業中のマナー

- ・遅刻は認められていません(遅刻は欠席となります)ので注意してください。
- ・授業中の入退室はしないでください。
- ・授業に関係ない飲食物などは机の上に置かないでください。
- ・授業終了後(特に帰宅前)には視聴覚教材、エアコン、室内の電源を切ってください。
- ・実習では白衣など決められた服装を守ってください。

4. 携帯電話のマナー

- ・授業中はマナーモードにしてください。
- ・病院内又は図書館内ではマナーモードにしてください。

- ・公共交通機関を利用する場合はマナーモードにして、通話はしないでください。
(医療人を目指す学生の常識です。)
- ・運転中は使用しないでください。

5. 講義室等の利用に関するマナー（講義室等の清掃）

- ・講義室等は、学生が定期的に清掃することになっています。
- ・当番に当たった学生は、自分の居室のつもりで清掃を心掛けてください。
- ・黒板は授業終了毎に当番の学生が消してください。
- ・普段からできるだけ汚さないように気をつけてください。

3 全学学生掲示板

アセンブリ精神に則って本学園の全学生がお互いに協力しつつ活発な学生生活を過ごすための支援の一つとして、「全学学生が比較的自由に使用することのできる掲示板」との主旨で、合同校舎1階学生食堂壁面に「全学学生掲示板」を常設しています。全学的な学友会活動・クラブ活動等で大いに活用してください。この掲示板の利用方法は下記のとおりです。

- ・「全学学生掲示板」は、学生支援課で管理しています。
- ・掲示を希望する学生は、掲示物を学生支援課へ持参してください。
- ・掲示物の規格は、原則としてB2判大（新聞紙2頁大）以内にしてください。

【問い合わせ先】 場 所：学生支援課（大学5号館2階）

開室時間：平日 8：45～17：00

土・日・祝日、振替休日、藤田学園の休日（6/11、10/10、12/29～1/3）は休みです。

電 話：0562-93-9442

4 就職支援（キャリア支援係）

本学では、就職や進学に関する相談・支援の窓口として学生支援課の中にキャリア支援係を設置しています。

キャリア支援係では、本学で学んだ専門知識や習得した技術を活かせるように、学生一人ひとりの個性や適性にあった就職支援ができるよう取り組んでいます。就職活動がスムーズにおこなわれるためには就職ガイダンスを実施し、また、就職の機会が少しでも多くなるように、年間を通じて企業や病院、検査・健診センターなどに訪問して求人開拓をしています。また、得た求人情報を公開するとともに適切なアドバイスを行っています。（求人情報は、学内外のパソコンや学生のスマートフォンから、いつでもどこからでも自由に閲覧することができます。）

一人ひとりに寄り添い具体的なサポートを手厚くおこなうことで、学生の希望に合わせた就職を実現しています。就職活動関連の書籍貸出、履歴書の添削、面接の練習、その他の相談など、いつでも気軽にお越しください。

【問い合わせ先】

場 所：学生支援課 キャリア支援係（大学5号館2階）

開室時間：平日 8：45～17：00

土・日・祝日、振替休日、藤田学園の休日（6/11、10/10、12/29～1/3）は休みです。

電 話：0562-93-2514

メール：shushoku@fujita-hu.ac.jp

5 学生相談室

来室したことや相談内容に関するプライバシーは守られます。

どんな小さなことでも気軽にご相談ください。

学生相談室は、学生が抱えるさまざまな問題に対応するために、みなさんの悩みや相談に耳を傾け、みなさんと一緒に最良の解決をめざす、大学の安心・安全な場所です。

人生の目標、人間関係、学業、将来についての疑問に向き合う場所にされる学生もいます。

青年期は心が成長する時もあり、社会生活を送る上での心のしなやかさを身につける非常に大切な時期です。人は誰でも、一時的に心のバランスが崩れ、悩みを抱き不安に陥ることがあります。そのような時は一人で悩みを抱え込まないで、周囲の助言や援助を求めるのも、大人に成長する大切なスキルといえます。

学生相談室では、皆さんのがより良い学生生活を送ることが出来るように、お手伝いをしています。一度お会いして、一緒に考えてみませんか。

• 相談時間を確保するため、できれば電話・メールで事前に予約をしてください。

予約の際には、氏名・学科・学年・希望の曜日と時間を教えてください。

• オンラインでの相談も可能ですが、実施については相談員が判断した上で行うこととします。初回の相談の際は必ず学生相談室に来室してください。担当するのは臨床心理士・公認心理師です。

【相談・予約先】

場 所：大学1号館8階814号室

電 話：0562-93-2615（学生相談室直通）

Eメール：soudan@fujita-hu.ac.jp

開室時間：平日 10:00～17:00

土曜 9:00～12:30

※日・祝日・振替休日・藤田学園の休日（6/11、10/10、12/29～1/3）は休みです。

※メールの返信がない等、相談員と連絡がつかずお困りの場合は、学生支援課へ連絡ください。相談員の不在時、学生支援課が対応することもあります。

【問い合わせ先】

場 所：学生支援課（大学5号館2階）

電 話：0562-93-2636

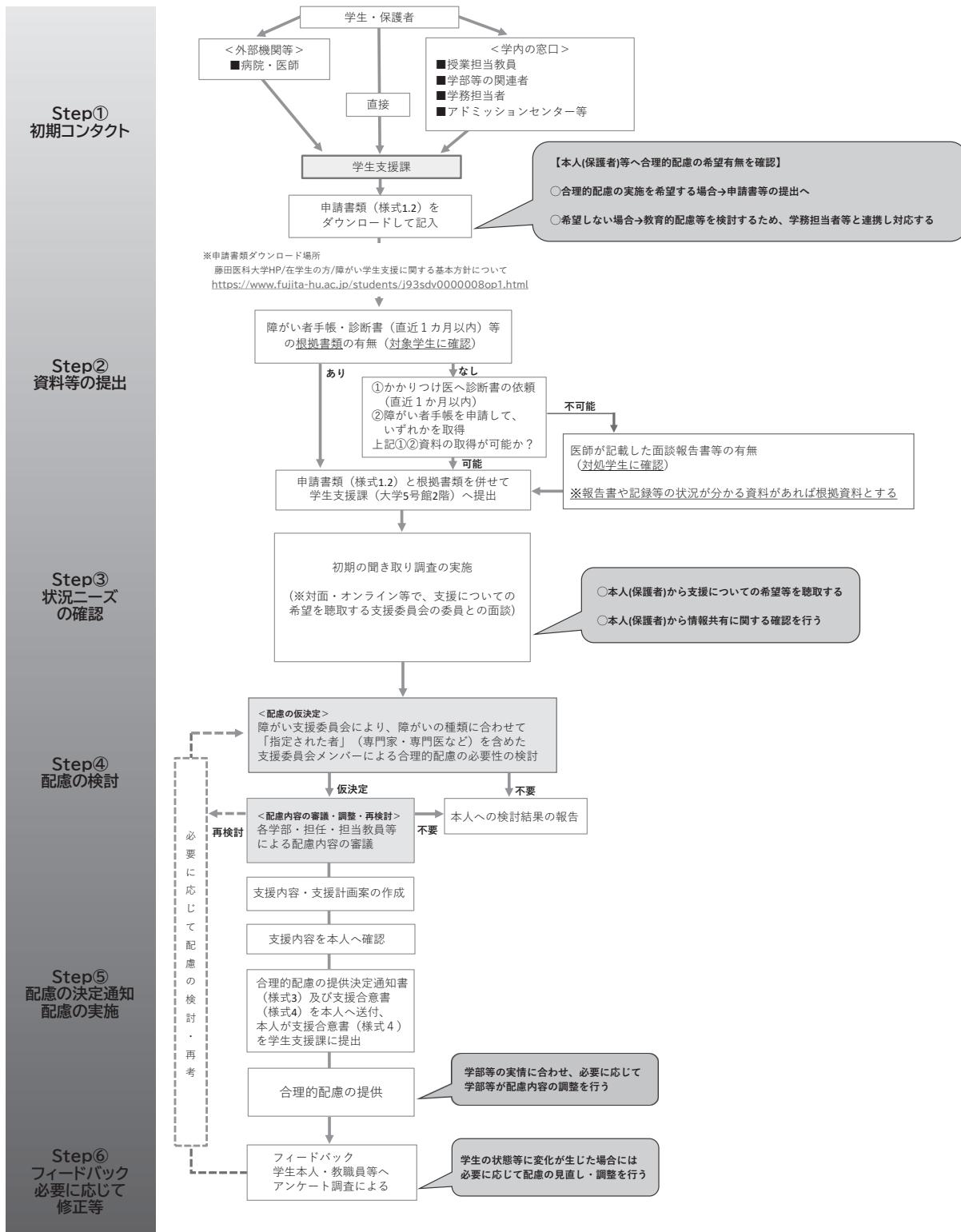
Eメール：gakuseib@fujita-hu.ac.jp

6 障がい学生への支援（合理的配慮）

藤田医科大学では、障がいのある学生の修学及び学生生活に関する相談に応じ、他の学生と平等に教育を受ける機会の提供を支援しています。本学の基本方針や具体的な申請方法については、右のQRコードから本学のHPをご確認ください。
支援を希望される在学生の方は、気軽に学生支援課までお問合せください。



◎障がい学生支援 相談から実施までの流れ



7 一時休憩室

体調不良時の一時休憩、およびかすり傷程度の処置に対応しています。

利用の際は、学生支援課または学務課員にお声がけください。

なお、診察が必要な場合や緊急の場合は、大学病院を受診してください。

【設備・備品】 ベッド2床、消毒液、絆創膏、湿布、氷嚢、体温計、血圧計、ガーゼ、包帯、爪切り、毛抜き等

【場所】 大学3号館1階 事務所内

大学8号館1階 事務所内

【利用可能時間】 平日 8:45~17:00

【問い合わせ先】 学生支援課（大学5号館2階）

電話：0562-93-2636

8 藤田学園健康管理部

〈健康管理部利用について〉

藤田学園健康管理部は学園の全学生と豊明校地の教職員の健康管理を担当しています。

看護師、事務員が常駐しており、以下の業務を行っております。

- 体調不良時の相談 ※詳細は8学生診療受診体制及び手順を参照ください
- 病気に罹患したり怪我を負った時（緊急性は無いと判断した場合）の受診の案内
- 健康診断後の受診指導及び保健指導
- 予防接種の相談と実施
- 健康相談
- 心の健康相談に関しては学生相談室と連携を取って対処していきます

【利用時間】 月曜日～金曜日 8:45～16:30

土曜日 8:45～12:00

【場所】 フジタモール3階

結核は決して過去の病気ではありません

一時おさまっていた感染症が再度増加してきたものを再興感染症と呼び、わが国でとりわけ心配されているのが結核です。以前は国民病と言われ、大きな死因となっていましたが、治療の進歩により激減しました。しかし、結核にかかる若者が増えてきているため、年1回の健康診断をきちんと受けるとともに、2週間以上咳が続くようなときには、医療機関を受診してください。

9 学生診療受診体制及び手順

1. 一般受診の場合（緊急性がない場合）

予約受診、一般受診

受診希望の学生は、通常の受診受付を行ってください。受診希望科の外来受付で、本学の学生であることを告げ、昼休みなど授業時間外の受診希望を依頼してください。

- ・藤田医科大学病院を利用する場合は、「学生証」、「健康保険証（コピー可）」もしくは「遠隔地被保険者証（原本）」を持参してください。
- ・藤田医科大学病院の外来診療受付時間
受付時間 8：15～11：30
- ・他院からの紹介状を持参した場合は、初診時の費用の一部が免除されます。

2. 意識はあるが受診を希望する場合

- (1) 8：45～11：30

該当する診療科へ受診する。

- (2) 11：30～翌8：45

時間外外来（内線：2150、9108）へ連絡してください。

3. 緊急性を要する場合

- (1) 発見者は、近くに人がいれば協力を求めてください。

- (2) 発見者は最寄りの電話で院内救急蘇生用ホットライン（内線：9900、時間外：0562-93-9900）に蘇生要請を行ってください。

- (3) 必要であればBLS（気道確保、心マッサージ）、AED（自動体外式除細動器）による処置を行ってください。

AED設置場所

①	大学2号館3階廊下
②	大学2号館3階事務室（学務課）
③	大学3号館（1階・3階・5階EV横）
④	大学5号館1階（正面入口横）
⑤	大学7号館1階（ダヴィンチ低侵襲手術トレーニングセンター前）
⑥	大学8号館1階EV横
⑦	大学10号館1階EV横
⑧	合同校舎6階（西側EV前）
⑨	アセンブリホール（体育館）1階（受付横）
⑩	フジタホール2000（グランドホワイエ）

10 安全運転の心得

1. 自動車

自動車通学を希望する学生には、所定の手続きをとって交通安全講習会の受講を義務付けることで学生駐車場の利用を許可しています。

平成26年5月20日より『自動車運転により人を死傷させる行為等の処罰に関する法律』が施行されたほか、令和元年12月1日より改正道路交通法『運転者の遵守事項』が施行され、「ながら運転」が厳罰化されました。下記（1）（2）に該当する危険な運転は絶対に行ってはいけません。所要時間や走行ルートは事前に確認し、心に余裕を持った運転を心がけてください。

（1）危険運転

- 1) アルコール又は薬物の影響により正常な運転が困難な状態で自動車を走行させる
- 2) 進行を制御することが困難な高速度で自動車を走行させる
- 3) 進行を制御する技能を有しないで自動車を走行させる
- 4) 重大な交通の危険を生じさせる速度で運転しながら、人や車の通行を妨害する目的で走行中の自動車の直前に侵入したり、人や車に著しく接近したりする
- 5) 車の通行を妨害する目的で、重大な交通の危険を生じさせる速度で走行中の車の前方で停止したり、その車に著しく接近したりする
- 6) 高速自動車国道又は自動車専用道路において、自動車の通行を妨害する目的で、走行中の自動車の前方で停止したり、その他これに著しく接近したりすることで、走行中の自動車に停止又は徐行（自動車が直ちに停止することができるような速度で進行すること）をさせる
- 7) 赤色信号だと分かっているのにそれを無視し、重大な交通の危険を生じさせる速度で自動車を運転する
- 8) 通行禁止道路を進行し、重大な交通の危険を生じさせる速度で自動車を運転する

（2）飲酒・酒気帯び運転等

- 1) 酒気を帯びているのに車両を運転する
- 2) 酒気を帯びている人へ車両を提供する
- 3) 車両を運転するおそれのある者へ酒類を提供する
- 4) 酒気を帯びている人へ自己を運送するように要求または依頼をし、その車両に同乗する

（3）運転者の遵守事項

運転する場合において、自動車が停止している時以外は、携帯電話を手で保持しながら通話をしたり、携帯電話やカーナビに表示された画像を注視したりしないこと。

※大学周辺は民家も多く、小中学生の通学路にもなっています。速度を落とす等の安全上の配慮、マナーの順守をお願いします。

2. 自転車

自転車利用者の増加に伴い、自転車利用者の交通ルール違反やマナーの悪さが原因となる事故も増えています。愛知県では令和3年3月に「自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」が制定されました。また、令和3年10月1日より自転車損害賠償責任保険等への加入が義

務化、ヘルメット着用が努力義務化されました。ルールやマナーをしっかり守って安全に利用しましょう。

(1) 自転車は、車道が原則、歩道は例外

道路交通法上、自転車は軽車両と位置づけられています。したがって、歩道と車道の区別のあるところは車道通行が原則です。

(2) 車道は左側を通行

自転車が車道を通行するときは、自動車と同じ左側通行です。

- 1) 道路の中央から左側部分の左端に寄って通行してください。
- 2) 一方通行道路で「自転車を除く」の補助標識があり、自転車の規制が除外となっている場合に通行（逆行）する場合も同じです。

(3) 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行

歩道に自動車通行可の道路標識がある場合や普通自動車通行指定部分の道路標識がある場合などにおいては、自転車が歩道を通行することができます。

- 1) 自転車が歩道を通行する場合は、車道寄りの部分を徐行しなければなりません。
- 2) 歩行者の通行を妨げるような場合は一時停止しなければなりません。

(4) 安全ルール・マナーを守る

- 1) 飲酒運転・二人乗り・並進をしない
- 2) 夜間はライトを点灯する
- 3) 交差点での信号や一時停止標識の遵守

交差点における信号無視や一時停止標識のある場所での一時不停车は、交通違反です。

交差点では必ず信号を守り、周囲の安全を確認してから進行しましょう。

- 4) イヤホン・ヘッドフォンを装着しての運転をしない
- 5) スマートフォン・携帯電話を使いながらの運転をしない
- 6) 傘さし運転をしない

※交通事故の備えも大切です。

自転車と歩行者の事故では、24歳以下の若い自転車運転者が当事者となる場合が多い状況にありますので、損害賠償責任保険等に加入しているか家庭で確認をお願いします。

11 飲酒について

1. アルコールに関する正しい知識を身に付けてください。

アルコールは脳の機能をマヒさせ、理性による抑制を減らします。酔いが進むほど、適切な判断ができにくくなりますので、普段から正しい知識を身につけ、忘れないことが大事です。

それつが回らなくなり、千鳥足になっている状態などは、大脳辺縁系までマヒが及んでいる状態を表し、吐き気や嘔吐も出現します。これ以上の飲酒は危険です。周囲の人も行き過ぎた飲酒を阻止してください。脳全体にマヒが広がると、まともに立てず、意識が混濁し、言葉も支離滅裂となります。マヒが延髄まで至ると、生死に関わる深刻な状態となり、大小便が垂れ流されたりします。急性アルコール中毒の疑いがある状態ですので、酔いつぶれた人には体の保温、窒息を防ぐため顔や体を横に向けるなど適切な介護・医療を提供するとともに、ためらわずに救急車を呼んでください。

大学生の飲酒事故の大半は、部活・サークルの新入生歓迎コンパや合宿、忘年会などの際に、イッキ飲みなどで、短時間に多量のアルコールを摂取することにより起こる急性アルコール中毒や、それにともなう嘔吐による窒息によるもので、死亡事件も発生しています。また、急性アルコール中毒の状態のものに適切な介護・医療を提供しない事も重大な飲酒事故につながります。

飲酒にからんだ事件（性犯罪、器物損壊、飲酒運転等）、トラブル（訴訟、恐喝等）もかなりの頻度で起きています。決して加害者に、そして被害者にもならないようにしてください。

アルコールに関する正しい知識を身につけるとともに、藤田医科大学学生として良識ある行動をしてください。

2. 未成年者の飲酒は法律で禁止されています。

法律で禁止されているため、未成年者はお酒を飲んではいけません。

また、アルコールによって、正しい判断がさらにしにくくなるため、未成年者が飲み方や適量もわからず無理に飲むと、急性アルコール中毒を引き起こしやすくなります。

もし、誰かに勧められても、きちんと断ることが大切です。

未成年に飲酒をさせることも法律違反です。



3. 以下のようなアルコールを強要する行為はアルコール・ハラスメントです。

- 伝統やしきたりでイッキ飲みさせる。
- ゲームの一環としてお酒を飲ませる。
- 場を盛り上げるために、飲酒を強要する。
- 体質的に飲めない人、未成年者にも飲酒させる。
- 酔い潰すことを目的としている。

4. 未成年飲酒、飲酒事故は懲戒処分の対象として審議されます。また、部活動等による飲酒事故、未成年飲酒、アルコール・ハラスメントがあった場合には、活動停止等の処分の対象となります。

(注) 2022年4月から民法の成年年齢は18歳に引き下げられましたが、お酒に関する年齢制限については、20歳のまま維持されます。

12 喫煙禁止・受動喫煙防止

— キャンパス内全面禁煙について —

藤田医科大学は、将来医療の担い手となる皆さんのが大学生時代に生涯の健康を守るために習慣を身に付けるようにするとともに、広く人の健康を守る人材となるよう教育することを使命としています。

また、健康増進法という法律や、日本医療機能評価機構の第三者による査定から、現在どの医療施設でも全面禁煙となっており、医療従事者が医療現場での喫煙に関する個人の自由は許されなくなっています。

本学では、【学園敷地内全面禁煙】を実施しており、また、【学園敷地周辺での喫煙も禁止】しております。敷地内での喫煙および、敷地外での喫煙による迷惑行為が生じた場合には、厳正に処罰いたします。

もし、まだ喫煙をしているようなら、喫煙学生である諸君の禁煙活動を支援する目的で、健康管理部（キャンパス案内図11）（P59～P60）の禁煙支援を受けることを勧めます。



(参考) 健康増進法 第25条の規定の制定の趣旨



法第25条の規定において『学校、体育館、病院、劇場、観覧場、集会場、展示場、百貨店、事務所、官公庁施設、飲食店その他の多数の者が利用する施設を管理する者は、これらを利用する者について、受動喫煙を防止するために必要な措置を講ずるように努めなければならない』こととした。また、本条において受動喫煙とは『室内又はこれに準ずる環境において、他人のたばこの煙を吸わされること』と定義した。

受動喫煙による健康への影響については、科学的に明らかとなっている。

本条は、受動喫煙による健康への悪影響を排除するために、多数の者が利用する施設を管理する者に対し、受動喫煙を防止する措置をとる努力義務を課すこととし、これにより、国民の健康増進の観点からの受動喫煙防止の取組を積極的に推進することとしたものである。

たばこを吸わない人が知らず知らずのうちにたばこの煙を吸っていることを受動喫煙といいます。

喫煙者が直接吸う煙（主流煙）よりも周囲に広がる煙（副流煙）の方が有害物質を多く含んでいます。喫煙は本人だけでなく、周囲の人々もたばこの煙によって害を被ります。

注）2022年4月から民法の成年年齢は18歳に引き下げられま

したが、喫煙に関する年齢制限については、20歳のまま維持されます。

必要なのは吸わない人への配慮

喫煙者は肺がんのリスクが約4～5倍に高まりますが、吸わない人も肺がんのリスクが高まります。喫煙は周囲の人にまで、害を及ぼし、吸わない人にとって煙（副流煙）は非常に迷惑です。吸わない努力が必要でしょう。



受動喫煙防止対策のキャラクター
(けむいモン)

13 薬物乱用防止に関する注意

1. 薬物乱用について

薬物乱用は、薬物を乱用した本人だけの問題ではなく、家族を含めた多くの人々の人生を不幸にします。

特に、医療系総合大学である本学の学生には、良識ある行動を切望します。

以下に内閣府よりの薬物乱用に関する啓発資料を示します。

(1) 薬物の乱用とは

薬物の乱用とは、医薬品を医療目的以外に使用すること、又は医療目的にない薬物を不正に使用することをいいます。精神に影響を及ぼす物質の中で、習慣性があり、乱用され、又は乱用されるおそれのある薬物として、覚醒剤、大麻、MDMA、MDA、コカイン、ヘロイン、向精神薬、その他麻薬（LSD、マジックマッシュルーム、ケタミン）、シンナー、薬事法に規定する指定薬物等があり、これらの取扱いが法令により禁止又は制限されています。

(2) 薬物を乱用すると

薬物乱用の恐ろしさは、何回も繰り返して使用したくなる「依存性」を持つてしまうことです。また、繰り返し使用しているうちに「耐性」を持つてしまうことです。そのような状態になると、自分の意思では薬物の使用をコントロールできなくなってしまい、身体と精神が蝕まれてしまうのです。

- ・1回の使用でも脳出血、心不全などの死に至ることがあります。
- ・大脑の神経細胞が侵され、脳の機能に異常をきたし、幻覚、妄想、錯乱などの精神障害が生じます。
- ・薬物をやめた後でも、ストレス、飲酒などがきっかけで精神障害が再び起きることがあります。薬物による害は一生続きます。
- ・視神経の異常や眼底出血を引き起こし、視力低下や失明を招きます。
- ・肺、胃、肝臓、腎臓などの各器官に深刻な悪影響を及ぼします。
- ・精神的、身体的に薬物に依存し、薬漬けの毎日となります。
- ・懲役刑を科されるなど、法律で厳しく罰せられます。

(3) 薬物依存症

薬物依存症は国際的に認められている精神障害のひとつです。覚醒剤・シンナー・大麻などの依存性のある薬物を使い続けているうちに心身に異変が生じ、薬物を使いたいという気持ち（渴望）が強くなりすぎて、自分がコントロールできなくなり、薬物を使い続けてしまう障害です。

2. 危険ドラッグ等

危険ドラッグ等、新たな乱用薬物が蔓延しています！

最近は、「合法ハーブ」「アロマ」「お香」などと称して販売される薬物が闇・地下ルート、インターネットで販売され手軽に購入できます。使用した人が嘔吐、けいれん、呼吸困難、意識障害等の健康被害を起こすなど、死亡するケースも発生しています。これらの薬物は、「合法」

「脱法」等と称して販売されていますが、規制薬物以上の依存性・毒性を有する成分を含んでいるものもあり、大変危険なものです。使用したことによる事故や事件も発生しています。また、これらの薬物の乱用は、覚醒剤や大麻などの乱用へつながる可能性が高いことが懸念されています。

危険ドラッグの中には、実際は麻薬等の規制薬物が含まれているものもあります。合法、脱法などと称して販売されているからといって「違法ではない」「危険ではない」ということは決してありません。販売側の作り上げる誤ったイメージに騙されないようにしましょう。

14 キャンパス・ハラスメントの防止・対策



学生部長
石原 慎

藤田学園は、医療系総合大学として本学に集う学生が、お互いに相手の立場を尊重し、健全で快適な学生生活環境及び教育・研究活動の中で修学に励む事ができるように最大限の努力を続けていきます。

キャンパス・ハラスメントは、相手方の意に反する不適切な発言、行為等を行うことによって、相手方に不快感や不利益を与え、人権を侵害し、教育研究・学修環境を悪化させることをいいます。

キャンパス・ハラスメントとして、次の4つがあげられます。

1. セクシュアル・ハラスメント

相手方の意に反する性的な言動あるいは不快な行為・脅迫・嫌がらせなどによって相手方に不快感や不利益を与え、修学・就労や、教育・研究・課外活動の環境を損なうことを指します。

2. アカデミック・ハラスメント

教育・研究上の場面において発生する問題で、指導を受ける者の修学・研究や職務上の権利を侵害したり、人格的尊厳を傷つけたりする不適切な言動や行為を指します。

3. パワー・ハラスメント

職務上の地位や優位な立場などを背景に、その部下や同僚の職務上の権利を侵害したり、人格的尊厳を傷つけたりする不適切な言動や行為を指します。

例えばアルコールの強要（アルコール・ハラスメント）もこれにあたります。

4. モラル・ハラスメント

言葉や態度などいわゆる「見えない暴力」によって支配下に置いたり、精神的に追い詰めたりする行為を指します。

これらは、単独ではなく、数種のハラスメントが複合して、発生することもあります。

なかでも、セクシュアル・ハラスメントは、学園内に所属する学生同士や学生・教員間などの人間関係を背景として、人権を無視・侵害し、相手の望まない性的言動、あるいは不快な行為・脅迫・嫌がらせなどにより修学上の不利益や身体的・心理的な傷害を与える行為です。将来、医療の現場で活躍する人材を教育する機関として、また本大学病院の理念である「我ら、弱き人々への無限の同情心もて、片時も自己に驕ることなく医を行わん」の理想に反する容認できない行為です。

あらゆるハラスメントを根絶し、明るく楽しい学生生活が送れるような環境を一緒に作り上げていきましょう。

藤田学園では、キャンパス・ハラスメントのない教育環境を整備するため、2017（平成29）年2月1日にキャンパス・ハラスメント規程・細則及びガイドラインの改定を行いました。キャンパス・ハラスメントに対する基本姿勢、予防・防止対策及び発生した場合の対応手順を定めています。

藤田学園でのハラスメント防止・対策への基本姿勢（キャンパス・ハラスメントやパワー・ハラスメントを例に）

“藤田学園はキャンパス・ハラスメントを許しません！”

本学で教育を受ける立場の皆さん（学部生、大学院生、留学生、研究生、科目等履修生、聴講生等）を対象に、藤田学園キャンパス・ハラスメントの防止・対策等の内容を以下に分かりやすく記載しました。

- ・本学では、学生の皆さんが、キャンパス・ハラスメントのない、快適で、充実した教育環境で、学生生活を送れるよう努めます。
- ・本学では、キャンパス・ハラスメントが生じないよう、また生じた場合、迅速に秘密厳守で問題解決に努めます。
- ・本学では、キャンパス・ハラスメント防止対策の周知徹底を全教職員に図り、啓発に努めます。

※セクシュアル・ハラスメントの申し立て事例から

『言 葉』

言葉による申し立て

例えば…

- ・コンパなどの飲み会で「異性経験は？」「彼氏（彼女）はいるの？」などプライベートな質問をされ不愉快であった。
- ・交際を断った先輩に「あいつは異性にだらしない」などの噂を流された。
- ・研究室で性の話題が多く不愉快であるが、評価に反映するかと思うと話をあわせなければならず、研究室に行くのが苦痛である。
- ・担当教職員から、性的要求を拒否した学生に対して単位を与えないと脅された。

『行 為』

身体接触、迷惑行為、迷惑電話等による申し立て

例えば…

- ・実習先の病院で実習指導者が不必要に接触してくるが、今後の指導・評価への影響も考えると「いや！」と言えず悩んでいる。
- ・コンパなどの飲み会への参加を強要し、お酌をさせたり隣に座らせたり、無理やりデュエットを求める。
- ・交際を断った先輩が毎晩後をつけたり、携帯電話に執ように電話やメールをしたりする。

『 目 』

視覚的なものによる申し立て

例えば…

- ・身体の上から下までじろじろなめ回すように見られ、屈辱的であった。
- ・研究室・教室で性的描写の写真集・雑誌や画像をわざと見せられ、見ていて不快であった。

※パワー・ハラスメントの申し立て事例から

『言 葉』

言葉による申し立て

例えば…

- ・「肩にフケがベターと付いている。お前病気と違うか」と言われ不快であった。
- ・「存在が目障りだ、居るだけでみんな迷惑している。お願ひだから消えてくれ。」と言われ不快であった。

『行 為』

迷惑行為、身体接触等による申し立て

例えば…

- ・飲酒を強要された。
- ・試験前など部活動に参加を強要された。
- ・退部を申し出たら、先輩全員の許可を取りと言われ強要された。
- ・先輩に殴られたり、プロレス技を掛けられたりした。

※ハラスメントにあつたら

- ・ハラスメントは多くの場合「No！」と言えない状況で起こりますので、不快な気持や屈辱感を相手に言えなかったり、逃げられなかったりしても、自分を責める必要はありません。一人で悩んだり我慢したりせずに、相談窓口員や周りの人に相談しましょう。
- ・繰り返される場合、記録（メモ・録音）をとっておきましょう。見ている人がいたら、その人にも確認をお願いしてください。

※ハラスメントを見かけたら

- ・周りでハラスメントを目撃したら、黙って見過ごさないで加害者に注意をし、被害者を助けてあげましょう。
- ・被害者の相談にのって精神的に支えてあげ、決して被害者を責めないで下さい。要請があれば証人になってあげましょう。
- ・相談窓口は目撃したあなたの相談・情報も受け付けます。

※ハラスメントの加害者にならないために

- ・あなたの意図にかかわらず、相手が「不快である」、あるいは「嫌がらせ」と感じた場合、それがハラスメントです。多くの場合、相手が拒否の意思表示が出来ない立場にあり、同意や合意と勘違いしないで下さい。
- ・加害者になってしまったのではないか、したつもりはないのに、と思ったら悩まず相談窓口員に相談しましょう。

※その他の学生間トラブル等について

- ・同級生等の一定の人間関係にある者が行う、相手に心身の苦痛を与える心理的または物理的行為（インターネットを通じて行われるものも含む）は絶対に許されません。
- ・本学は、対象となった学生、あるいはその恐れがある学生を徹底して守ります。
- ・本学の全教職員がその理解を共有し一致協力して臨みます。

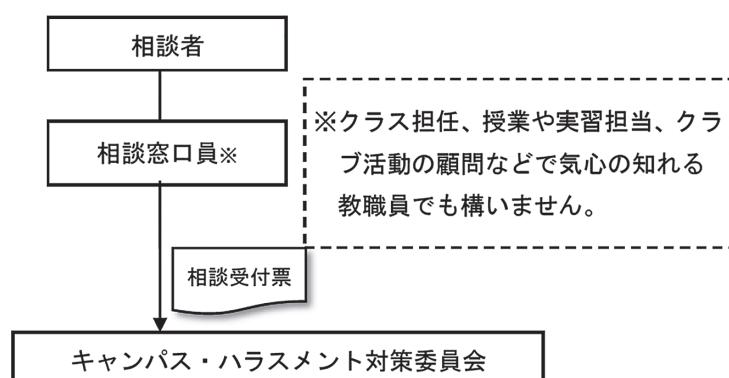
ハラスメント被害から解決までの道のり

学園への相談・訴えに対するプロセス（キャンパス・ハラスメントの場合を例に）

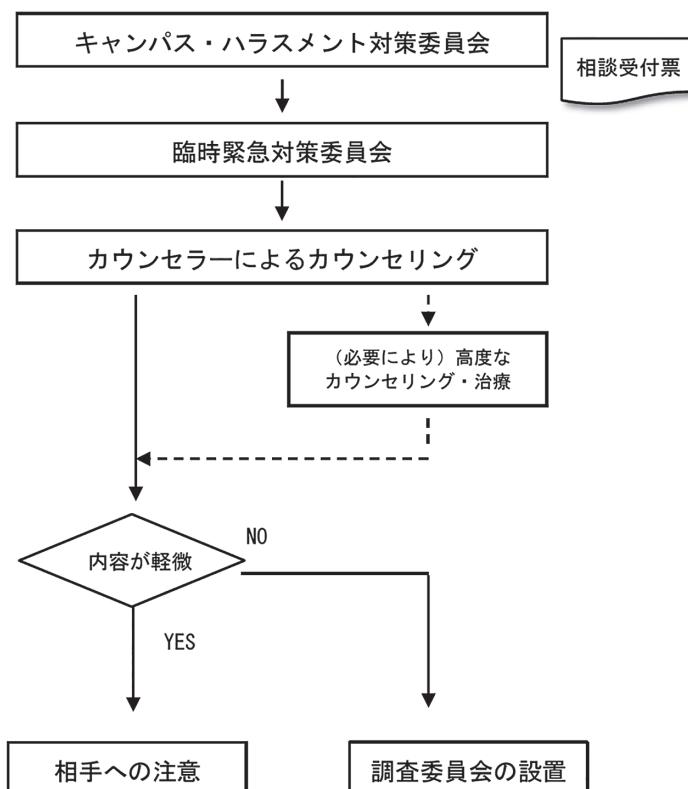
本学のキャンパス・ハラスメント相談窓口及び対策委員会では、あなたのプライバシーを高く守りつつ、問題の解決に努めます。

ハラスメント被害から解決までの道のり

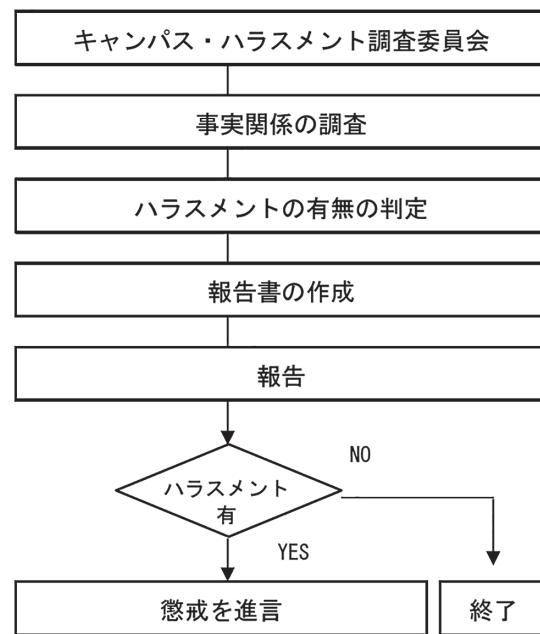
1. 学園に連絡するプロセス



2. 対策委員会による初期対応のプロセス



3. 調査委員会による調査のプロセス



藤田学園キャンパス・ハラスメント相談窓口員

2024年4月

氏名	所属	電話	メールアドレス	場所
小 谷 侑	医学部 生理学I	0562-93-2463 ／2587 (研究室)	yukodani@fujita-hu.ac.jp	大学1号館4階
佐々木 ひと美	医学部 腎泌尿器外科学	0562-93-2496 (専用)	sasakih@fujita-hu.ac.jp	病院C棟12階1225
若 月 徹	医学部 健康科学	0562-93-2631 (専用)	wakatuki@fujita-hu.ac.jp	大学2号館8階807
守 口 匡 子	医学部 生命科学	0562-93-9800 (専用)	khigo@fujita-hu.ac.jp	大学2号館7階704
藤 江 里衣子	医学部 医療コミュニケーション	0562-93-9081 (専用)	rieko.fujie@fujita-hu.ac.jp	大学2号館10階1005
牛 田 かおり	医学部 病理学	0562-93-2442 (研究室)	kaori.ushida@fujita-hu.ac.jp	大学1号館5階
内 藤 裕 子	医療科学部 研究推進ユニット 免疫医科学分野	0562-93-2518 (専用)	yuko.naito@fujita-hu.ac.jp	大学10号館101
堀 内 ちとせ	医療科学部 基礎教育	0562-93-2677 (専用)	chitose@fujita-hu.ac.jp	大学9号館4階410
川 上 友 美	保健衛生学部 看護学科	0562-93-2598 (共用)	kawakami@fujita-hu.ac.jp	大学3号館6階605
前 田 晃 子	保健衛生学部 リハビリテーション学科	0562-93-9065 (共用)	akko629@fujita-hu.ac.jp	大学8号館1階106
西 部 曜 美	大学事務局 学務部 学生支援課	0562-93-2663 (専用)	arun@fujita-hu.ac.jp	大学5号館2階
神 原 祐 奈	大学事務局 学務部 学生支援課	0562-93-9442 (共用)	ykamiya@fujita-hu.ac.jp	大学5号館2階

※学部にこだわらず、相談窓口員のどなたに相談していただいても構いません。

※相談窓口員はいずれの方々も本務がありますので、相談・面談に行く場合は前もって連絡したほうがよいでしょう。

※手紙で郵送する場合の住所（藤田医科大学各学部の宛先）：〒470-1192豊明市沓掛町田楽ヶ窪1-98

【問い合わせ先】 学生支援課 大学5号館2階

電話 0562-93-9442

Eメール gakuseib@fujita-hu.ac.jp

学内、友達等に相談しづらい場合は、下記の学外無料相談窓口もあります。

愛知県女性相談センター	0 5 2 - 9 6 2 - 2 5 2 7
イーブルなごや	0 5 2 - 3 2 1 - 2 7 6 0
女性の人権ホットライン	0 5 7 0 - 0 7 0 - 8 1 0
愛知県警察本部性犯罪110番	0 1 2 0 - 6 7 - 7 8 3 0
愛知県弁護士会	0 5 2 - 5 7 1 - 3 1 1 0

15 藤田医科大学ソーシャルメディア利用ガイドライン（学生向け）

1. 目的

SNS (Twitter、LINE、Instagramなど) や動画共有サイト、ブログ、電子掲示板 (BBS) 等のソーシャルメディアは、便利で実用性の高いコミュニケーション・情報発信手段として広く利用されている一方で、情報発信者が意図しないあるいは予期できない問題を引き起こし、当該個人だけでなく、周囲の人や所属する団体・組織等に深刻かつ永続的な影響を及ぼす危険性があります。そのため、本ガイドラインに定めたソーシャルメディア利用にあたっての注意点、遵守すべき事項を十分に理解し、慎重な利用を求めます。

2. 適用範囲

このガイドラインは、藤田学園（以下、本学という）在籍の学生（藤田医科大学の学部生・大学院生）が、公私、匿名顕名を問わずソーシャルメディアを利用する場合に適用します。

3. ソーシャルメディア利用にあたって留意すべき事項

- (1) 本学の学生であることを常に自覚し、発信する情報の社会的影響を十分に考慮の上、利用すること。
- (2) 法令、本学の学則ならびに諸規定を遵守すること。
- (3) 学内、学外実習やボランティア、さらにアルバイト等で知り得た情報（個人情報に限らない）の守秘義務（契約）を遵守すること。
- (4) 他人の名誉、信用を毀損、風説を流布しないこと。また、他人の基本的人権、プライバシー権（肖像権等）、知的財産権（著作権、商標権、営業秘密等）、その他の他人の権利を侵害しないよう十分に留意すること。
- (5) 他人を誹謗中傷する内容、公序良俗に反する内容、人種・思想・宗教・信条等に関する差別的内容、違法な行為またはそれを助長するような有害な内容を発信しないこと。
- (6) 自らのプライバシーを守るよう十分に留意すること。
- (7) 情報を発信するときは、前各号を遵守の上、正確に記述するとともに、その内容について誤解を生じないよう十分に留意すること。

4. 調査

ソーシャルメディアの利用において何らかのトラブルが発生した場合、またはその利用について本学が相応しくないと判断した場合、本学はその品位を守り、社会的責任を果たす目的で、あるいは学生保護の目的で、学生のソーシャルメディアの利用について調査することがあります。

5. トラブルに巻き込まれた場合

ソーシャルメディアを利用し、何らかのトラブルに巻き込まれた場合は、指導教員、学年担任、各学部の学生指導委員長または学生支援課へ速やかに報告してください。

6. 違反行為に対する措置

本ガイドラインを逸脱する、または調査の結果それが強く疑われる行為があった場合、当事者を学則に基づき懲戒する場合があります。

7. その他

本学の責任において、本ガイドラインを予告なく変更することがあります。

16 ブラックバイトについて

ブラックバイトとは、学生が学生らしい生活を送れなくしてしまう違法性のあるアルバイトのことを言います。

本学の学生の皆さんは、アルバイトをしていて、次のような経験はありませんか？

- ・勉強や部活に集中したいのに辞めさせてくれない
- ・試験期間中でもシフトを決められて休ませてもらえない
- ・時給や勤務条件が最初の話と違う
- ・思い当たる理由もなく勝手にクビにされた
- ・アルバイト先でパワハラやセクハラがある

これらは「ブラックバイト」として法律に抵触する典型的な事例です。これ以外にも、学生の労働法規に関する知識の無さや立場の弱さにつけ込んで、残業代の不払いや割増賃金不払い、休憩時間を与えない、ミスをしたら不合理な罰金を請求されたなどの事例が挙げられます。

本来、学生生活を支えるためのアルバイトのはずが、雇用主側の勝手な都合によって、逆に学生生活自体を脅かすようなアルバイトの増加が社会問題となっています。皆さんが学生であることを尊重しない悪質なアルバイトに対して、皆さんは黙っている必要はありません。

1. アルバイトをする前に知っておきたい7つのポイント！（厚生労働省のHPより）

- (1) アルバイトを始める前に、労働条件を確認しましょう！
- (2) バイト代は、毎月、決められた日に、全額支払いが原則！
- (3) アルバイトでも、残業手当があります
- (4) アルバイトでも、条件を満たせば、有給休暇が取れます
- (5) アルバイトでも、仕事中のけがは労災保険が使えます
- (6) アルバイトでも、会社都合の自由な解雇はできません
- (7) 困ったときは、総合労働相談コーナーに相談を！



アルバイトの労働条件を確かめよう！
キャラクター
(たしかめたん)

〈厚生労働省ホームページ〉

「確かめよう 労働条件」QRコード

あなたの労働条件を専用サイトで
たしかめましょう！



〈労働条件相談ほっとライン（厚生労働省委託事業）〉

平日夜間・土日・祝日に、無料で労働条件に関する電話相談が受けられます。

【フリーダイヤル】 0120-811-610（はい！ろうどう）

平日：17時～22時、土・日・祝：9時～21時

※年末・年始（12月29日～1月3日まで）は除く。

2. ブラックバイトの被害に遭うなどの疑いを感じたときは悩まずに直ぐに相談を！

〈学内相談窓口〉 学生支援課（大学5号館2階）

TEL 0562-93-2636

E-mail gakuseib@fujita-hu.ac.jp

〈学外相談窓口〉 NPO法人ブラックバイトユニオン（相談料無料・秘密厳守）

- 電話相談受付

受付時間 13時～17時（毎週日曜日）

TEL 03-6804-7245

※現在相談が増えており、面談での相談対応や会社との交渉等のため、
電話に出られないことがあります。メール相談をご利用ください。

- メール相談受付（電話に出られないときはメールを利用）

メールフォーム <http://blackarbeit-union.com/contact/mailform/>
E-mail info@blackarbeit-union.com

- 所在地 〒155-0031 東京都世田谷区北沢4-17-15

ローゼンハイム下北沢201号室

※ブラックバイトユニオンは、学生アルバイトの労働問題の広がりを受け、NPO法人POSSEの学生の相談スタッフ有志により2014年8月に結成された団体です。

17 海外渡航に際しての注意

1. 海外で出会えるのは美しい風景と優しい人々だけとは限りません。テロや犯罪による事件・事故、地震・津波等の自然災害、そして感染症や過労等による病気などの危険もあなたを待ちかまえているのです。特に海外旅行のシーズンには、日本人旅行者を狙った犯罪も多く発生する傾向がありますので、注意が必要です。なお、特に、最近アジアを中心に「いからさま賭博」の被害、また、欧州を含む広い地域で「スリ・置き引き」「薬物」に関わる犯罪被害の報告が増加しています。
2. 旅に出ると、日頃の生活からの解放感もあって、ついつい油断が生じがちです。こうした心のスキが、海外では、取り返しのつかない結果を招きかねません。せっかくの楽しい旅行ですから、出発前には海外安全ホームページや目的地の日本大使館や総領事館のホームページ等から渡航先の情報をしっかりと収集し、万一に備え、自分の安全を護るために必要な知識を身に付けておきましょう。そして、旅先では決して油断せず、常に「自分の身は自分で護る」との意識を持って、安全で楽しい旅行を心がけてください。
3. また、海外で大きな災害や事件が発生し、国内で報道されますと、御家族や友人は、巻き込まれているのではと心配します。このため、出発前には必ず、LINEなどのSNS以外にも自分の携帯電話や旅行日程と宿泊先等の連絡先を御家族や留守宅に残すとともに、旅先からも定期的に連絡するように心がけてください。特に、旅行会社の企画旅行等を利用しない個人旅行の方々はなおさらのこと、御家族や留守宅との定期連絡を絶やさないでください。
4. 海外渡航を検討されている方は感染症危険情報等で最新情報を確認し、滞在中は外出時にはなるべく人混みは避ける、手洗いうがいを積極的に行うなど感染防止に努めてください。感染が疑われた場合には速やかに滞在国のルールに従い医療機関で受診してください。
安全対策の「知識」と「意識」をしっかり持って、海外旅行を楽しんでください。

〈安全な海外旅行のための心得 5 箇条〉

(1) 現地の法律を守り、風俗や習慣を尊重すること。

当然のことですが、旅行先では、その国の法律に従って行動しなければなりません。ある行為が日本では比較的軽い犯罪と見なされいても、国によっては想像もできないほど重い犯罪に該当することもあります。各國の法律は、その国にある宗教や文化等と密接に繋がっているものです。旅行中は、旅行先国の法律を守り、風俗や習慣に配慮した行動を常にとるよう心がけましょう。

(2) 危険な場所には近づかないこと、夜間の外出は控えること。

一見、安全と思われる国・地域でも特定の場所や時間帯によっては、危険な場合があります。事前に渡航先の犯罪が多発する場所をチェックし、そうした場所には近づかないことが大切です。また、不案内な外国では、夜間の外出には様々なトラブルがつきものです。特に少人数での夜間の自由行動は、場所を問わず控えることをおすすめします。

(3) 多額の現金、貴重品は持ち歩かないこと。

一般に、日本人観光客はお金持ちで不用心という印象を持たれています。路上や観光スポットで日本人をターゲットにしたスリや置き引きも各地で多発しています。犯罪者に目を付けられないためには、旅行者らしい身なりは避けること、万が一、犯罪に遭遇しても、最小限の被害ですむよう外出時には多額の現金や貴重品は持ち歩かないようにしましょう。

(4) 見知らぬ人を安易に信用しないこと。

日本人は外国人から詐欺の格好のターゲットとされています。特に個人で旅行をする若年者が、旅先での旺盛な好奇心から見知らぬ人の誘いに安易に乗って、自宅に誘われたり、飲食物をすすめられたりして、「いかさま賭博詐欺」や「睡眠薬強盗」の被害に遭った例は少なくはありません。見知らぬ人から親しげに声をかけられても、安易に信用することは禁物です。

(5) 薬物には絶対に手を出さないこと。

特に薬物犯罪については、近年、多くの国が取締りを強化しています。死刑を含めた厳罰でのぞむ国も珍しくありません。実際、旅行中に軽い気持ちで薬物に手を出した人、また、知人からの依頼を断りきれず「運び屋」を請け負った人、こうした方々の中には、その後の人生を台無しにするほど重い刑罰を科せられた例もあります。自らの安全のためにも、薬物に手を出すことは絶対にやめましょう。

(6) 感染症のリスクを正しく理解し、感染しないよう注意すること。

海外では、さまざまな原因で感染症にかかるリスクが存在します。水や飲食物などを通じて体内に侵入する感染症から、節足動物や動物に噛まれることで感染するものまで、その範囲は広範です。感染症のリスクを正しく理解することで、感染を予防したり、早期診断と早期治療によって重症化を防ぐことができます。したがって、渡航先で感染のリスクがある感染症を事前に把握し、現地では感染しないように心がけることが重要です。

厚生労働省検疫所のウェブサイト（FORTH）では、気を付けたい病気、予防接種、持っておきたい薬に関する情報を確認できます。

出国前には、外務省海外旅行登録「たびレジ」に登録してください。留学先国・地域の治安状況がタイムリーに把握できるだけでなく、有事の際、「たびレジ」の登録情報に基づき、外務省からの安否確認や救助支援が行われます。

その他備えておくと良いこと

- 海外旅行保険の加入

保険内容を選ぶ際は3つの補償が含まれている保険を選びましょう。また、クレジットカードには海外旅行保険が付いているものもありますが、クレジットカード付帯の保険は補償内容が十分でないことがほとんどです。必ず新たに保険に加入してください。

- 大使館等の現地での緊急連絡先

渡航先でトラブルがあった際、まずは大使館や警察への連絡が必要となります。

- パスポート、ビザのコピーを持っていくこと

パスポート紛失時の手続きがスムーズになります。

18 保険・学生専用総合補償プラン

1. 補償内容／保険金額（2024年度予定）

（1）傷害事故補償（学校管理下のみの補償）〈補償地域：国内、国外〉

学生が学校管理下にある間に、急激かつ偶然な外来の事故（以下「事故」といいます）によって、その身体に被った傷害に対して、下記の保険金を支払います。

※「学校管理下」とは、**授業中、在校中、部活動中、登下校中、学校に届け出た課外活動中、学校行事（入学式、オリエンテーション、卒業式等、教育活動の一環として学校の主催する各種の学校行事）**をいいます。

保険金の種類	保険金額	保険金をお支払いする場合
傷害死亡保険金	150.6万円	事故の日から180日以内にケガがもとで死亡された場合や後遺障害が生じた場合。
傷害後遺障害保険金	6.0～150.6万円	
傷害入院保険金日額	2,261円	事故日より180日以内にケガがもとで入院された場合。
傷害通院保険金日額	1,504円	事故日より180日以内にケガがもとで通院された場合。
傷害手術保険金	1) 入院中の手術………入院保険金日額×10倍 2) 入院中以外の手術………入院保険金日額×5倍	

※通院保険金の支払日数限度は90日、入院保険金は180日となっています。

（2）賠償責任補償〈補償地域：国内、国外〉〈示談交渉サービス：国内事故あり、国外事故なし〉

学生の日常生活に起因する偶然な事故で、他人の生命または身体を害したり、他人の物を壊したりしたことに対して、法律上の賠償責任を負われた場合に保険金を支払います。

〈支払限度額：1事故につき対人・対物1億円〉

※「日常生活」は社会人学生の職務中は含みません。

（3）実習時の事故対応費用補償〈補償地域：国内〉

1) (3) に定める事故対応費用は次のいずれかに該当する費用をいいます。

①学生が臨床実習中に、急激かつ偶然な外来の事故に遭い、その直接の結果によって疾病に至る恐れがある場合に、“**予防措置**”を行うことにより発生する費用

②学生が臨床実習中に事故に遭い、その直接の結果によって疾病に至った場合に、“**治療**”を行うことにより発生する費用

2) 1) ①②に定める費用は、予防措置および治療に要する実費のみとし、かつ公的健康保険の自己負担部分に限ることとします。

(3) に定める事故対応費用の支払限度額は、1名（学生）につき25万円を限度とします。

2. 事故が起きた時の手続き

この保険で対象となる事故が生じた場合には、直ちに「事故の日時」、「場所」、「状況」、「傷害の程度」を学生支援課に報告し、所定の書類「事故報告書」を事故の日から30日以内に提出してください。

提出者には保険会社への保険金請求手続きを説明します。

19 出校制限

藤田医科大学出校制限を必要とされる疾患への対応

1. 出校制限を必要とされる疾患（学校保健安全法施行規則で指定されている伝染病）

A. 第1種感染症（改正感染症法の一類感染症および結核を除く二類感染症）

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘瘡、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（SARSウイルス）、中東呼吸器症候群（MERSウイルス）、特定鳥インフルエンザ、指定感染症および新感染症

- 治癒するまで出校停止となります。

B. 第2種感染症（飛沫感染する伝染病で学校において流行を広げる可能性が高いもの）

インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く）、百日咳、麻疹、流行性耳下腺炎、風疹、水痘、咽頭結膜熱、結核、髄膜炎菌性髄膜炎

飛沫感染をするため、学校において流行する可能性が高い感染症である。出席停止の基準は、感染性が認められなくなるまでという基準であり、疾患によって異なります。これらの基準は疾患が治癒したとは同義ではありません。

- インフルエンザ：発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日間経過するまで。
- 百日咳：特有の咳が消失するまで又は、5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
- 麻疹：解熱後3日間経過するまで。
- 流行性耳下腺炎：耳下腺、頸下腺又は舌下腺の腫脹が出現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで。
- 風疹：発疹の消失まで。
- 水痘：全ての発疹が痂皮化するまで。
- 咽頭結膜炎：主要症状消退後2日を経過するまで。
- 結核、髄膜炎菌性髄膜炎：医師によって感染の恐れがないと認められるまで。

C. 第3種感染症（学校教育活動を通じ、学校において流行を広げる可能性があるもの、改正感染症法の三類感染症を含む）

コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症（O-157）、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染病

- 医師によって伝染の恐れがないと認められるまで。

※新型コロナウイルス感染症に関しては、適宜、学務課に相談してください。

2. Aの疾患に罹患した学生は、出校をせず適切な指定医療機関の指示に従ってください。その後、連絡のとれる家族又は関係者が、学務課に電話で連絡してください。罹患した学生は治癒するまで出校停止とします。

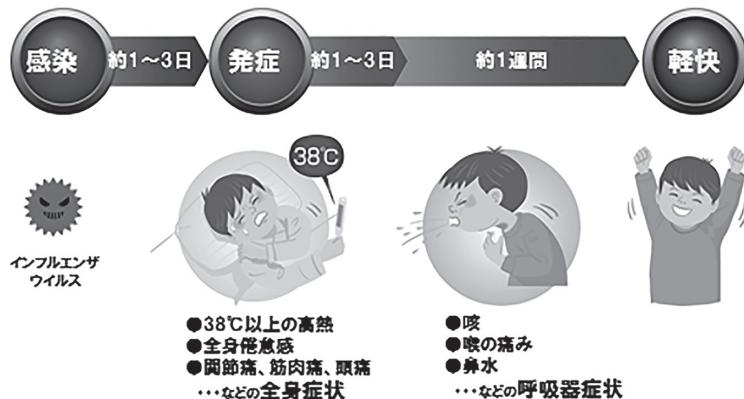
3. B及びCの疾患に罹患した学生は、出校をせず、学務課に電話で連絡し、最寄りの医療機関で治療を受けてください。その医療機関で出校を許可された後、出校してください。なお、必要に応じて学長が出校停止を指示する場合があります。
4. これらの疾患に罹患した学生は、後日、診断書と特別欠席願を学務課に提出してください。特別欠席届が受理されれば、欠席扱いとはなりません。
5. これらの疾患で急速に広まる場合、学部長が学長及び理事長に報告し、理事長の判断により、学校閉鎖とすることがあります。
6. これらの疾患で出校を制限された学生の授業や実習については、後日、補習などで可能な限り補填されます。ただし、期間の妥当性などに関しては委員会で協議することができます。

20 インフルエンザに関する注意

インフルエンザに罹患すると発熱や体調不良で苦しむだけでなく、学期末の学業や試験成績にも影響します。以下の1に示すような一般的な感染防止対策に留意する必要があります。さらに、病院内で実習している学生は罹患する機会が多く、自分自身が院内感染源になる危険性もありますので特に注意しなければなりません。インフルエンザのワクチン接種は最も有効な感染防止対策となります。健康管理部では全学生や職員にワクチン接種の機会を設けています。

本学では、病院の院内感染防止対策指針に沿って、以下の2、3のような対応を取っていますので、病院内で実習中のすべての学生は遵守しなければなりません。なお、2の(1)～(3)は、実習中以外の学生にも適用されます。

インフルエンザの症状・経過



1. 一般的なインフルエンザ予防対策

- (1) うがい、手洗いを励行してください。特に外出から帰宅した時は速やかに行ってください。
- (2) 十分な睡眠をとり、過労や不摂生を避けてください。
- (3) バランスのとれた食事を摂ってください。
- (4) 人で混雑する場所への外出は避けてください。
- (5) 体の不調を感じたら、早めに受診してください。

2. 学生、特に病院内で実習中の学生がインフルエンザを発症した場合

- (1) インフルエンザ流行時にインフルエンザ様症状が発症した場合は無理をして出校せずに早期に受診して適切な治療を受けてください。学生は自分自身が院内感染や周辺への感染源となる可能性のあることを考え、マスクの着用など適切に行動してください。
- (2) インフルエンザあるいはインフルエンザ疑いと診断された場合は、発症日を含まない5日間、あるいは解熱後2日間経過したうちの長い方を経過するまで自宅待機とします。受診時には、この期間までの診断書（医療科学部、保健衛生学部では、登校禁止疾患受診報告書でも可）作成を、受診した医療機関へ依頼してください。
- (3) 学生は速やかに「インフルエンザ（疑い）」で欠席することを実習先責任者および学務課に電話で連絡し、後日、特別欠席届と診断書（医療科学部、保健衛生学部では、登校禁止疾患受診報告書でも可）を学務課まで提出してください。

3. 院内実習先でインフルエンザのアウトブレイクが発生した場合

- (1) 院内感染防止対策委員会によりアウトブレイクと認定された場合、学生が当該病棟あるいは診療ユニットへ立入ることは一定期間禁止されます。
- (2) 実習先責任者は、学生が当該病棟あるいは診療ユニットに立入る必要のないカリキュラムを実行させてください。

21 新型コロナウィルス感染症について

新型コロナウィルス感染症（COVID-19）への対応については、感染拡大防止と社会経済活動の両立を主旨とする政府の基本的対処方針に基づき、本学においても感染拡大防止と教育・研究・診療等の業務・活動の両立を図っているところです。

学生の皆さんについては、あらためて本学が病院を有する医科大学であることを念頭に、各自が将来的医療人としての高い責任感を持ち、国や本学が定めている新型コロナウィルス感染拡大防止のための行動指針を遵守するようお願いします。

1. 新型コロナウイルス感染症とは

発熱やのどの痛み、長引く咳（1週間前後）、強い倦怠感、味覚嗅覚異常を訴える方が多いことが特徴です。感染から発症までの潜伏期間は1日から10日（多くは5日から6日）といわれています。

新型コロナウイルスは**飛沫感染（一部エアロゾル感染）**と**接触感染**するといわれています。

飛沫感染	感染者の飛沫（くしゃみ、咳、つばなど）と一緒にウイルスが放出され、他の方がそのウイルスを口や鼻などから吸い込んで感染します。
接触感染	感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れるとウイルスが付着します。他の方がそこを触るとウイルスが手に付着し、その手で口や鼻、目を触ると粘膜から感染します。

※重症化すると肺炎や死亡例も確認されています。特に基礎疾患のある方等は重症化しやすい傾向がありますので注意しましょう。

2. 新型コロナウイルスに感染しない、させないために

◆**発熱を含めた風邪症状の有無（＊1）**や体調変化に十分注意を払い、自己管理に努めましょう。

（＊1） 症状が認められる場合は、速やかに所属する学部の「**学校感染症対応フローチャート**」の指示に従って行動してください。フローチャートは所属する学科のポータルサイトで確認出来ます。

◆**手洗い・マスクの着用を含む咳エチケット（＊2）、密の回避の徹底（＊3）**を常に意識して行動をし、感染拡大を予防する「**新しい生活様式（＊4）**」を実践しましょう。

（＊2）「手洗い」や「マスクの着用を含む咳エチケット」
(首相官邸HPより)

<https://www.kantei.go.jp/jp/content/000059525.pdf>



手洗い



咳エチケット

（＊3）ゼロ密を目指そう！（厚生労働省HPより）

<https://www.mhlw.go.jp/content/000884706.pdf>

（＊4）新しい生活様式の実践例（厚生労働省HPより）

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000641743.pdf>



密集回避

密接回避

密閉回避

換気

◆外出の際は、自身の健康状態、目的地の感染状況、利用する施設の感染防止対策を確認し、その必要性を今一度考えて判断しましょう。高齢者など重症化しやすい人に感染を広げないよう慎重に行動しましょう。



外出控え

◆国内（＊5）・国外（＊6）の感染拡大地域への旅行や、不要不急の移動を自粛しましょう。

（＊5）国内の発生状況など（厚生労働省HPより）

<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kokunainohasseijoukyou.html>

（＊6）海外渡航について（外務省HPより）

<https://www.anzen.mofa.go.jp/>

3. 新型コロナウイルス感染症流行下における学生生活について

◆大学構内への入構や授業形態の詳細については、各学部・学科により異なりますので、各学科のポータルサイトやメールを常に確認するとともに、学部別の学生便覧や大学のホームページの情報も確認しましょう。

◆発熱や呼吸器症状（風邪の症状）が認められる場合は、速やかに所属する学部の「学校感染症対応フローチャート」の指示に従って行動してください。フローチャートは改編される場合もありますので、適宜、所属する学科のポータルサイトやメールを確認するようにしましょう。

◆就職活動等で感染警戒地域へ行く必要がある場合は、所属する学部学科の指示に従って行動しましょう。

奨学金制度

本学の学生は、各種の奨学金制度を利用することができます。大きく分けて1. 藤田学園の奨学制度 2. 学外の奨学制度の二つがあります。いずれの奨学金にも申込条件（成績基準・家計基準等）があります。詳細は学生支援課（大学5号館2階）へ問い合わせてください。

1. 藤田学園の奨学金制度

（1）学校法人藤田学園奨学金貸与制度

対象：本学在学生

条件：在学中においての経済的理由により、修学が困難となった学生のうち、品行方正、学業成績優秀にして他の学生の模範と認められる者

貸与金額：授業料の全額、又は奨学金貸与委員会で査定した金額

申込期間：毎年1月15日～2月15日※土日祝を除く（事情により変更もある）に翌年度分の申し込みを行う

貸与期間：1年間 引き続き貸与を希望する者は改めて願い出る

返還：卒業後返還の義務あり（無利息）

返還の期間は原則として学部・学校の定める修業年限以内（ただし、医学部医学科の奨学生については10年以内）

（2）藤田学園同窓会奨学金貸与制度

対象：本学学生のうち、6ヶ月以上在学している学生

条件：志操穩健、品行方正、向学心旺盛にして経済的理由により修学困難な者

貸与金額：月額6万円を限度として奨学金貸与委員会で査定した金額

申込期間：毎年10月1日～10月10日※土日祝を除く（事情により変更もある）に翌年度分の申し込みを行う

貸与期間：1年間 引き続き貸与を希望する者は改めて願い出る

返還：卒業後10年以内に返還の義務あり

ただし、利息は付けない

2. 学外の奨学金制度

（1）独立行政法人日本学生支援機構奨学金

1) 奨学金の種類（①～④は返還の義務あり）

①第一種奨学金（無利息）

②第二種奨学金（利息付 在学中は無利息）

③入学時特別増額貸与（利息付）

入学時のみに10万円、20万円、30万円、40万円、50万円から増額貸与を選択することができます。

④緊急採用・応急採用

家計の急変（主たる家計支持者が失職・病気・事故・会社倒産・死別離別・災害等）で奨学金を緊急に必要とする場合に申請できます。第一種奨学金（無利息）は緊急採用、第二種奨学金（利息付）は応急採用と言います。

⑤給付型奨学金（返還の義務なし）

詳細は修学支援制度（P43）をご確認ください。

2) 奨学金の貸与額（2023年度入学者）

①第一種奨学金（無利息、返還の義務あり）

区分	通学方法	奨学金月額	4年間の貸与総額	6年間の貸与総額
大 学	自宅	20,000円	960,000円	1,440,000円
		30,000円	1,440,000円	2,160,000円
		40,000円	1,920,000円	2,880,000円
		54,000円	2,592,000円	3,888,000円
	自宅外	20,000円	960,000円	1,440,000円
		30,000円	1,440,000円	2,160,000円
		40,000円	1,920,000円	2,880,000円
		50,000円	2,400,000円	3,600,000円
		64,000円	3,072,000円	4,608,000円

②第二種奨学金（利息付　返還の義務あり）

2万円～12万円（1万円単位）から選択

奨学金月額	4年間の貸与総額	6年間の貸与総額
20,000円	960,000円	1,440,000円
～	～	～
120,000円	5,760,000円	8,640,000円

※医学部では12万円を選択した場合、4万円増額を申し込むことができます。

3) 希望者は掲示に従い所定手続をとり、学内の推薦委員会が選考して日本学生支援機構に推薦し、日本学生支援機構が採用を決定します。

(2) その他、地方自治体、各種財団などの募集は、先方より案内があり次第、本学ホームページに掲載します。

高等教育の修学支援新制度

2020年4月より、国による「高等教育の修学支援新制度」が開始となりました。本制度は、経済的な理由で大学進学を諦めることの無いよう、授業料等の減免と給付型奨学金を併せて支援する制度です。

- ◆対象：本学に進学または在学する住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯
- ◆支援内容：認定された支援区分に応じて①、②、③を併せて支援

支援区分	支援内容		減免額		③：給付奨学金（月額）	
	①：入学金 (1回限り)	②：授業料 (年間上限額)	自宅通学者	自宅外通学者	自宅通学者	自宅外通学者
第Ⅰ区分 (満額支援)	260,000円	700,000円	38,300円 (42,500円)	75,800円		
第Ⅱ区分 (満額の2／3支援)	173,400円	466,700円	25,600円 (28,400円)	50,600円		
第Ⅲ区分 (満額の1／3支援)	86,700円	233,400円	12,800円 (14,200円)	25,300円		
第Ⅳ区分 (満額の1／4支援)	65,000円	175,000円	9,600円	19,000円		

- ◆申込方法：申込方法の詳細は学内掲示版、各学科ポータルサイト等で案内します。
見逃さないようにご注意ください。

*本支援額は2024年4月時点の金額であり変更となる可能性があります。

《参考》

本制度に関する詳細は以下のウェブサイトもご覧ください。

【文部科学省】

- (1)：「高等教育の修学支援新制度」特設ページ（高校生・保護者向け）
<https://www.mext.go.jp/kyufu/>

【日本学生支援機構】

- (2)：奨学金の制度（給付型）
<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/kyufu/index.html>
- (3)：進学資金シミュレーター
<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/oyakudachi/shogakukin-simulator.html>

(1) 「高等教育の修学支援新制度」特設ページ	(2) 日本学生支援機構の奨学金の制度（給付型）	(3) 進学資金シミュレーター
		

アセンブリ教育実施要領



アセンブリ教育 (Interprofessional Education) は、建学以来続いている全学的教育活動です。師弟同行、全員集合と言う意味もあります。最も大切なことは、他者を**リスペクト**（尊重）する姿勢です。

「コミュニケーション」「チームワーク」「患者・利用者・家族・コミュニティ中心の考え方」、「職種の理解」といった多職種連携（協働）に必要な能力を身につけて、多職種連携（協働）を実践する医療人になりましょう！

アセンブリ教育センター長
大槻 真嗣

1. アセンブリ教育 (Interprofessional Education) とは（アセンブリ教育要綱抜粋）

1) 目的

アセンブリ教育はInterprofessional Education（多職種連携教育、専門職連携教育）である。全ての学生が、多職種連携（協働）を実践することができる医療人となるための全学的教育活動である。学生と教員が学部及び学科の垣根を越えて、共に活動することを通して、多職種連携（協働）の基盤づくりを行う。

2) 身につける力

アセンブリ教育と各学科における教育の両者により、多職種連携（協働）を行うために必要な力を身につける。

【多職種連携の基盤造り】多職種連携の目的や意義を理解できる

(1) 基本姿勢

- a. 他者を尊重（リスペクト）できる。
- b. 他の医療・福祉系学部の学生と共に学び、省察することができる。

(2) コミュニケーション

- a. コミュニケーションスキル（傾聴、質問等）を理解し、使用することができる。
- b. 相手を尊重したコミュニケーションを取ることができる。
- c. 自己の言動がもたらす他者への影響を省察することができる。
- d. チーム内で他者を尊重したコミュニケーションを取ることができます。
- e. 職種間で他職種を尊重したコミュニケーションを取ることができます。
- f. 患者・利用者・家族・コミュニティを尊重したコミュニケーションを取ることができます。

(3) チームワーク

- a. チームメンバーの関係性の構築・維持・成長に貢献することができる。
- b. チームで解決すべき課題を見出すことができる。
- c. 見出した課題に対する解決策を提案することができる。
- d. 自己とチーム全体の態度や言動について省察し、改善できる。

(4) 患者・利用者・家族・コミュニティ中心の考え方

- a. 患者・利用者・家族・コミュニティの課題に焦点を当て、共通の目標を設定できる。

(5) 職種の理解

- a. 自職種の役割を他職種および医療・福祉系学部の学生に説明することができる。
- b. 患者・利用者・家族・コミュニティに関わる他職種の役割を理解し、尊重するこ

とができる。

【多職種連携（協働）の実践】 現場において、多職種連携（協働）を実践することができる

(6) 多職種連携（協働）の実践

- a. 保健・医療・福祉の現場において、多職種との関係性の中で自職種の役割を果たすことができる。
- b. 保健・医療・福祉の現場において、職種間のコミュニケーションを取り、チームワークを発揮して、最適解を検討できる。

【防災活動を通した災害時の社会貢献ができる人材の育成】

(7) 基本姿勢

避難所においては、被災者の健康を維持するためにトイレ・防災食・ベッドが最も重要なことを理解し、その環境を整備するための基本技術を身につける。

2. 単位認定と卒業要件

アセンブリ教育は、建学の精神に基づいて実施される全学的教育活動である。2022年度以降の入学者を対象として、アセンブリⅠ (Interprofessional Education I)、アセンブリⅡ (Interprofessional Education II) 及びアセンブリⅢ (Interprofessional Education III) は1単位（必修）、アセンブリⅣ (Interprofessional Education IV) は1単位（選択）とする。また、アセンブリⅣは希望者のみを対象とした選択科目とする。なお、卒業に必要な履修時間数は別に定める。

※注意事項

防災士養成研修会の受講を修了していない場合、2024年度以降におけるアセンブリⅡの単位が取得出来ない。

3. 休講及び補講

休講については、アセンブリ教育センターからの掲示で通知する。但し、天候不良等に伴い、突発的に休講となる場合については、アセンブリⅠ～Ⅳ、およびアセンブリ防災担当の副センター長の判断にて、掲示以外の方法で緊急連絡する場合がある。補講については、アセンブリ教育センターで検討・審議のうえ決定する。

4. 担当教員

専任教員はアセンブリⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、戦略企画、アセンブリ防災の何れかに所属し、アセンブリ教育活動を支援する。但し、診療などに支障が出る場合はこの限りではない。

5. 概要

I) アセンブリⅠ (Interprofessional Education I)

1年次に行うアセンブリ教育活動である。グループワークを中心とした体験学習の活動により、「コミュニケーション」を学ぶ。

〈アセンブリⅠで身につける力〉

【基本姿勢】

- ・他者を尊重（リスペクト）できる。

【コミュニケーション】

- ・コミュニケーションスキル（傾聴、質問等）を理解し、使用することができる。
- ・自己の言動がもたらす他者への影響を省察することができる。

〈活動方法〉

1) 活動内容

①講演会

- ・アセンブリ講演会（医療と献体。特別講演が追加される場合がある。）
- ・その他（全体オリエンテーション、アセンブリⅡ活動報告会）

②講習

- ・オンライン会議ツール（Microsoft Teams）を利用したオンライン授業・グループワークと対面によるグループワークを併用して実施する。
- ・グループワークを通して「他者をリスペクトする」「傾聴する」「質問する」というコミュニケーションの基本を学ぶ体験学習。
- ・2年次以降のアセンブリ活動に向け、チーム作り・チームでの活動の基本について体験する。

2) 実施方法

①授業形態

- ・「自分を知る」「他者を知る」「見る」「聴く」「質問する」「チームを作る」等をテーマとしたグループワーク中心の体験学習を行う。
- ・学生はファシリテーター（教員）の指示により、6から7名の小グループに分かれてワークを実施する。
- ・ワークにおいて自身や他者がとった行動や言動、感じしたことなどについて、振り返りを行う。
- ・振り返りの内容について、グループ内もしくはチーム内で共有する。
- ・2年次のアセンブリⅡで「チームワーク」を身につけるための基盤となる「コミュニケーション」を身につける。

②活動時間

- ・活動時間は毎週月曜日3・4限（医学部においては4・5・6限の午後4時10分まで）とする。

〈評価法〉

全ての活動の出席および期限内での課題提出を以て評価の対象とする。

提出課題中の記述から、各回テーマごとに定めたスキルについての自己・他者の言動に関する省察の深さを評価する（80%）。

グループ担当のサポート教員によるグループワークの観察から、各学生の積極性や「話す」

「聞く」「調整する」というコミュニケーションに見られる他者の尊重の度合いを評価する(20%)。

再試験は到達目標に示した内容を問う問題を出題し、100点満点で出題し、再試験の評価を79点未満に換算する。

[注意事項]

- ・アセンブリⅠ(Interprofessional EducationⅠ)は1単位の単位認定された授業である。他学科混成の小グループ学修を行うので、演習であるが、全ての授業に出席しなければならない。
- ・アセンブリⅠは1年次で履修する教科であり、他学年では履修できない。
- ・原則として全ての活動(オリエンテーション、アセンブリ講演会、発表会、アセンブリⅡの活動報告会を含む)への出席及び課題提出を以って評価の対象とする。欠席や未提出課題等がある場合は補講・追加課題を課すことにより評価の対象とする。
- ・休講の決定及びその補講は別に定める。

Ⅱ) アセンブリⅡ(Interprofessional EducationⅡ)

2年次に行うアセンブリ教育活動である。チームとして明確な目標を定め、チームのために行動する。「コミュニケーション」を大切にして、「チームワーク」を学ぶ。コンテンツとして「避難所における貢献ー災害時における社会貢献としてー」を取り組む。

〈アセンブリⅡで身につける力〉

【基本姿勢】

- ・他者を尊重(リスペクト)できる。

「チームワーク」

- ・チーム内でコミュニケーションを取ることができる。
- ・チームメンバーの関係性の構築・維持・成長に貢献することができる。
- ・チームで解決すべき課題を見出すことができる。
- ・見出した課題に対する解決策を提案することができる。
- ・自己とチーム全体の態度や言動について省察し、改善できる。

〈活動方法〉

1) 活動内容

①講演会

- ・アセンブリ講演会(特別講演が追加される場合がある。)
- ・その他(全体オリエンテーション、アセンブリⅡ活動報告会)

②活動

- ・チーム単位での活動と全体活動は、オンライン会議ツール(Microsoft Teams)と対面によるチーム活動を併用して実施する。

2) 実施方法

①チーム

- ・複数の学部・学科の学生が所属する1チーム8名程度の混成チームを作る。
- ・各チームには担当教員を置き、担当教員はチーム活動のプロセスの支援を行う。所属学生はリーダー、サブリーダー、記録など何らかの役割を担う。
- ・チーム編成は複数の学部・学科混成となるようアセンブリ教育センターが決定する。

②活動など

- ・活動時間は原則として毎週月曜日4限（医学部においては5限・6限の午後4時10分まで）とし、前期（4月～7月）はオンラインで行い、後期（10月～12月）は対面で行う。
- ・活動は基本的にチーム単位で行い、前・後期ともに数回の全体活動を実施することで、チーム活動の振り返りを確実に行い、以降のチーム活動へ繋いでいく。
- ・「避難所における貢献－災害時における社会貢献として－」についてチームで意見を出し合い、合意をしてプロダクトを作り出す。
- ・活動の前期（4月～7月）はオンラインツールを利用して活動計画等の話し合いを中心に、後期（10月～12月）は前期の計画を基に実際に対面による活動を実施する。チーム活動を通して得たものや活動内容についてチームワークを発揮し、まとめを行う。
- ・活動終了後は、成果発表会を行う。
- ・3年次のアセンブリⅢで「患者・利用者・家族・コミュニティ中心の考え方」を身につけるためのチーム基盤型学習（Team-Based Learning）の基盤となる「チームワーク」を身につける。

〈評価法〉

全ての活動の出席および期限内での課題提出を以て評価の対象とする。

目標に対するループリック評価（30%）、振り返りレポートの提出（40%）、課題解決における知識を問うテスト（30%）により、総合的に評価する。

再試験は到達目標に示した内容を問う問題を出題し、100点満点で出題し、再試験の評価を79点未満に換算する。

[注意事項]

- ・他学科混成チームでの学修を行うので、演習であるが、全ての授業に出席しなければならない。学年全体で行われるオリエンテーション、アセンブリ講演会、発表会、活動報告会を含めて、全ての授業への出席を必須とする。欠席した場合は補講を受けなければならない。
- ・アセンブリⅡは2年次で履修する教科であり、他学年では履修できない。
- ・休講の決定及びその補講は別に定める。

III) アセンブリⅢ

3年次に行うアセンブリ教育である。「コミュニケーション」、「チームワーク」を大切にして、「患者・利用者・家族・コミュニティ中心の考え方」・「職種の理解」を学ぶ。教育技法として、チーム基盤型学習（TBL: Team-Based Learning）を採用する。

〈アセンブリⅢで身につける力〉

【基本姿勢】

- ・他者を尊重（リスペクト）できる。

「患者・利用者・家族・コミュニティ中心の考え方・職種の理解」

- ・患者・利用者・家族・コミュニティの課題に焦点を当て、共通の目標を設定できる。
- ・他職種を尊重し、職種間でコミュニケーションを取ることができる。
- ・自職種の役割を他職種および医療・福祉系学部の学生に説明できる。
- ・他職種の役割を理解することができる。
- ・チームで協力して課題に取り組み、最適解を提案することができる。
- ・チーム全体の態度や言動について省察し、改善できる。

〈活動方法〉

- ・活動時間は年度初めに、日程等が提示される。また、詳しい内容については、学科別に行う事前説明会で説明する。
- ・授業形態としては、対面授業によるチーム基盤型学習（Team-Based Learning）を採用する。
- ・学部・学科の異なる約6名の学生で混成チームを作る。
- ・学部・学科の垣根を越えて、チームで「患者・利用者・家族・コミュニティ中心の考え方」を学ぶ。
- ・事前説明会で配布する資料を充分に予習して、授業に臨む。配布資料には、「他職種」の紹介も含まれる。「他職種」についての理解が乏しいと「他学科」の学生との話し合いがうまくいかない。
- ・1日目の授業は、事前学習資料の理解度を確認する小テストであるiRAT（個人としての準備確認テスト）を行う。その後、同じ問題をチームで話し合って解答するtRAT（チームとしての準備確認テスト）を行う。tRATにより、個人が事前学習を行うことによるチームへの貢献度が明らかになる。その後、チームで応用課題に取り組む。
- ・2日目の授業は、引き続き応用課題を行なった後に、次回の授業に備えて予習の役割分担を行う。
- ・3日目の授業は、応用課題を行った後に、同僚学生による評価（ピア評価）を行う。
- ・4日目の授業は、各学科で振り返りを行う。
- ・アセンブリⅣで実践する多職種連携（協働）の基盤となる「患者・利用者・家族・コミュニティ中心の考え方」、保健・医療・福祉における「職種の理解」を身につける。

〈評価法〉

全ての活動の出席および期限内での課題提出を以て評価の対象とする。

確認テスト、応用課題の成果物、ピア評価によるTBLにおける評価（80%）、そして目標に対するループリック評価（20%）より、総合的に評価する。

再試験は到達目標に示した内容を問う問題を出題し、100点満点で出題し、再試験の評価を79点未満に換算する。

[注意事項]

- ・他学科混成チームでの学修を行うので、演習であるが、全ての授業に出席しなければならない。学科別で行われる事前のオリエンテーションと4日目の振り返り、他学科と合同で行われるチーム基盤型学習の3日間における全ての授業への出席を必須とする。
- ・欠席するとチームとしての活動ができないため、特別な事情がある場合を除いて遅刻や早退なく、すべての授業に出席することを修了の条件とする。
- ・欠席がある場合は、課題を課すことにより評価の対象とする。
- ・休講の決定及びその補講は別に定める。

IV) アセンブリⅣ

4年次（医学部は6年次）に行うアセンブリ教育である。アセンブリⅠ～Ⅲで身につけた「コミュニケーション」、「チームワーク」、「患者・利用者・家族・コミュニティ中心の考え方」、「職種の理解」を活かして、現場における多職種連携（協働）を実践する。

〈アセンブリⅣで身につける力〉

【基本姿勢】

- ・他者を尊重（リスペクト）できる。
- ・他の医療・福祉系学部の学生と共に学び、省察することができる。

【多職種連携（協働）の実践】

- ・保健・医療・福祉の現場において、職種間のコミュニケーションを取り、チームワークを発揮できる。
- ・患者・利用者・家族・コミュニティの課題に焦点を当て、共通の目標を設定できる。
- ・目標に向けて多職種で協働し、最適解を検討できる。
- ・患者・利用者、家族、コミュニティに関わる他職種の役割を理解し、尊重することができる。
- ・保健・医療・福祉の現場において、多職種との関係性の中で自職種の役割を果たすことができる。
- ・保健・医療・福祉の現場において、協働する職種間で信頼関係を構築することができる。

〈活動方法〉

- ・異なる学科の学生がチームを作り、主体的に企画・運営に参画し、活動する。
- ・保健・医療・福祉の現場における多職種連携（協働）に参加する。
- ・課題点を抽出し、その解決方法（最適解）を考える。
- ・学修した内容を他者と共有し、意見交換を行う。
- ・アセンブリ教育における出来事を省察し、今後の多職種連携（協働）に活かす。

V) アセンブリ防災 (Interprofessional Education disaster prevention)

アセンブリ防災は、防災士養成研修会で学んだ知識をベースとして避難所におけるTKB（トイレ・キッチン（食事）・ベッド）及びその関連技術に焦点を合わせ、避難所における貢献を目的にアセンブリⅠとアセンブリⅡの一部を利用して総合的な避難所支援技術を学ぶ。

〈アセンブリ防災で身につける力〉

【基本姿勢】

避難所運営に関する基本的な知識を理解し、被災者健康を維持するために最低限必用とされるTKBおよび避難所の環境整備を行う関連技術を理解することを目的とする。

〈活動方法〉

1) 活動内容

①T（トイレ）

避難所ではトイレ環境の悪化が大きな問題であり、排泄物の適切な処理は不快な思いのみならず、感染症やトイレ使用のためらいによる脱水がもたらすエコノミークラス症候群などの健康障害に直結する。避難所において快適なトイレ環境を整えるために、個人用・多人数用トイレの組み立ておよび使用方法を学ぶ。

②K（キッチン：食事）

避難者に暖かな食事を提供するため、防災食の主な種類と特徴、さらに選定のポイントについても学ぶ。防災食の備蓄（必要量）や管理の効率化を学ぶとともに、実際の調理も実施する。

③B（ベッド）

継続的な避難所生活において、窮屈な環境によるエコノミークラス症候群の防止や暑さ、あるいは寒さの緩和を目的に、簡易ベッドとしての段ボールベッドを作製する技術を身につける。

2) 実施方法

避難所にて使用されるTKBに関する物品を用いた少人数グループによる実技・体験を通して、避難所運営に役立つ知識および技術の修得を目的とする。

①T（トイレ）

簡易トイレの組み立てを行い、模擬排泄物を利用して凝固剤を用いた使用法とその処理方法を体験する。多人数用トイレとしてマンホールトイレの組み立てや使用方法、構造についても学ぶ。

②K（キッチン：食事）

保存期間が長く水やお湯を注ぐだけで簡単に調理ができるα米を始め、避難所で食事として利用される防災食に関する理解を深め実際に調理、アレンジ方法を体験する。また、糖尿病などの生活習慣病を持つ被災者を想定して、糖質やカロリーをカットした非常食の調理も実施する。

③B（ベッド）

避難所で使用される簡易ベッド（段ボールベッドなど）を実際に作成し使用方法や

寝心地などを体験する。避難所運営・設計計画に重要なベッドに関する知識・技術を身につける。

〈評価法〉

アセンブリ防災は、アセンブリⅠおよびアセンブリⅡの活動の中で行うため、評価はアセンブリⅠおよびアセンブリⅡの評価に含まれる。

[注意事項]

アセンブリⅠおよびアセンブリⅡの活動の中で行われるアセンブリ防災を欠席した場合は、相当する補講または課題提出が求められることがある。

施設案内

1 図書館

図書館は大学の教育・研究に関わる学術情報の体系的な収集、整理保存、提供を行うことによって大学の教育・研究に対する支援機能を担っています。医学・医療の進展は目覚ましく、それに伴って医学・医療関係の書物・文献情報も増加しています。最近は、学術情報の電子化に対応し、電子ジャーナルを始めとする電子情報資源へのアクセスの保証が重要な仕事となっています。情報環境が豊かになり、みなさんは多様な情報に容易にアクセスできるようになりました。しかし、その情報が本当に必要としている情報かどうか、科学的な根拠に基づいているかどうかを見極めなくてはいけません。さらには、必要な情報を探索し、分析・評価し、発信するスキル（情報リテラシー）が求められます。「良き医療人」を目指すみなさんへ図書館が支援の「場」を提供します。ぜひ図書館を利用してください。



図書館長
長崎 弘

医学、医学関連分野、その他の図書（一般図書・専門図書）の貸出および館内で自己学習をする環境が整っています。また、視聴覚教材の貸出及び視聴覚学習ができます。受付で気軽に尋ねてください。

（1）場所

大学1号館2階（本館）

大学8号館1階（分館）

（2）開館時間

本館……平日 8:45～22:00

土曜日 8:45～17:00

入館時には学生証による認証及び名札の着用が必要です。必ず携帯してください。

分館……平日 8:45～21:00

土曜日 8:45～15:00

入館時には学生証による認証及び名札の着用が必要です。必ず携帯してください。

無人開館のため閲覧利用に限ります。図書資料の貸出はしていません。

（3）休館日

日曜、祝日、総長の日（6/11）、開学記念日（10/10）、年末年始（12/29～1/3）

（4）貸出規定

1) 図書資料

学 生……5冊 1週間

大学院生……10冊 2週間

学生証により貸出できます。

貸出の延長は1回のみできます。

専門雑誌、禁帶出図書（辞書・辞典・年鑑・地図等）は貸出できません。

2) 視聴覚教材（本館のみ）

学 生……2本 1週間

大学院生……5本 2週間

各詳細は、図書館ホームページ (<https://library.fujita-hu.ac.jp>) にて確認してください。

2 体育施設、フジタホール

下記の施設は、原則として本学園の学生、教職員等が、学園行事、授業、アセンブリ活動及び学友会活動等に使用するものとしています。施設を使用する際は、使用目的、活動のルールに従い、使用申請を行ってください。

1. 各施設の利用案内

(1) 体育施設

1) 総合フジタグラウンド（トラック、グラウンド）

利用時間 平日：16：10～21：00 土、日、祝日：9：00～21：00

※雨天時は、使用不可

※火・木曜日は芝休めのため、原則的に使用できません。

※芝生の養生期間など、不定期に使用できない場合があります。

照明設備 ポイント購入式……片面30分 1,300円

(アセンブリホール {体育館} 管理室で購入できます)

2) 多目的グラウンド

利用時間 平日：16：10～日没 土、日、祝日：9：00～日没

※雨天時は、使用不可

※本グラウンドは緊急時にドクターヘリコプターの離着陸等に使用される
ことがあります。その際には使用を中止する場合があります。

照明設備 ありません。

3) テニスコート（4面）

利用時間 平日：16：10～21：00 土、日、祝日：9：00～21：00

※雨天時は、使用不可

照明設備 ポイント購入式……1面60分 500円

(アセンブリホール {体育館} 管理室で購入できます)

4) アセンブリホール（体育館）

(大アリーナ、中アリーナ（武道場）、小アリーナ1、小アリーナ2)

利用時間 平日：16：10～21：00 土、日、祝日：9：00～21：00

(2) フジタホール

1) フジタホール 500、2000

利用時間 平日、土、日、祝日：9：00～21：00

2. その他

各施設予約状況表及び使用許可願等書類掲載ホームページアドレス
《パーソナルページ》 <http://www.fujita-hu.ac.jp/~gakuchi-1/res/> (学内限定)

使用許可願書類等提出先

庶務課 大学2号館3階またはアセンブリホール（体育館）管理室
連絡先：(TEL) 0562-93-2585
(Mail) phy-gym@fujita-hu.ac.jp

3 地域連携教育推進センター

本学が持つ知的資源を活用し、医療系総合大学としての特色を生かした活動に取り組むことによって、地域社会の発展に寄与することを目的としています。

センターが窓口となり、公開講座の開催、講師の派遣、イベントへの参加など教育機会の提供や課題解決への支援をし、地域からの様々な要望に応えます。また、行政や協定を締結している他大学との連携により、様々な組織の力を結集し、地域の活性化に貢献しています。

場 所：大学2号館3階

連絡先：(TEL) 0562-93-9663

(Mail) chiiki-c@fujita-hu.ac.jp

4 国際交流推進センター

本学からグローバルな舞台で活躍できる医療人を輩出すべく、留学生等の受け入れ、学生や教職員の海外派遣、オンラインプログラム、国際交流イベントの開催など本学の国際交流活動を企画・運営・支援しています。また、国際交流に興味のある方のために、協定校の情報や国際イベントなど、国際に関する情報を集めたイングリッシュラウンジを運営しています。留学生との交流に興味がある方や、協定校への留学などで質問や相談のある方は、お気軽にお越しください。

場 所：大学2号館3階（センターオフィス）・大学1号館B1（イングリッシュラウンジ）

連絡先：(TEL) 0562-93-2884

(Mail) c-int-rl@fujita-hu.ac.jp

防災について

1 藤田医科大学における学生の地震防災に関する基本的行動指針

藤田学園は、学校法人藤田学園防災対策規程に定められた藤田学園防災対策組織によって地震への対処を実施します。有事に際しては藤田医科大学医学部、同医療科学部、同保健衛生学部（以下、藤田医科大学という）の全構成員が冷静かつ協力し合って行動することが求められます。

藤田医科大学における学生の地震防災に関する基本的行動指針（以下、行動指針という）は、下記の二つの状況に分けて考えます。いずれにしても災害においては「想定外の出来事」が生じることも想定しなければなりません。地震等の災害発生時には、大学は極力臨機応変に対応するよう務めますが、最も大切なのは学生が安全、安心な場所に素早く避難することです。

ここに示される行動指針に従って、各学部での詳細な指針（防災マニュアル）を定めるものとします。

学生の地震防災に関する基本的行動指針

1. 学内で突発的な地震にあった場合

- (1) まず、自分の身を守ります。特に、揺れている間は、姿勢を低くし、頭や体を防護し、揺れが収まるまで動かない、の3つが身を守る基本行動です。（シェイクアウト）
- (2) 揺れがおさまったら、すばやく火や危険物の始末をしてください。
- (3) 避難経路の確保をし、指示がある時は、指定避難場所へ避難してください。

2. 南海トラフ地震への対応

(1) 「南海トラフ地震臨時情報（調査中）」が出た場合

授業は平常通り行われます。各自、大学やマスメディアからの情報の把握に務めてください。

(2) 「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が出た場合

授業は中止します。必要に応じ、学生の帰宅などの安全確保対策がとられるので、指示に従って行動してください。※旅行や出張は自粛してください。

(3) 「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）」が出た場合

学生がこの段階で学内にいた場合、学生は大学の指示に従って行動してください。学長、各学部長及び学生部長は、学生が安全及び適切な行動をとれるように最大限の支援を行います。

2 異常気象時における授業の取り扱いについて

台風等で警報発令に伴う休講について、ホームページに休講情報は掲載されません。また、電話での問い合わせにも応じることができません。気象庁より発表された情報をもとに、下記を参考に各自で判断してください。

なお、休講となった場合、登校禁止となります。事務手続きや、すべての学内施設も使用することができなくなります。自習や部活動も禁止となりますので、注意してください。

愛知県西部地域①に 「暴風警報」が発令された場合 <愛知県西部地域①> 愛知県全域又は愛知県西部の尾張西部・尾張東部・西三河北西部・西三河南部・知多地域のいずれか	午前6時の時点で警報が発令されているとき又は午前6時以降午前9時までに新たに警報が発令されたとき 午前中の講義・実習は休講、試験は延期とする。 この際、 • 午前10時までに解除されたときは、 午後の講義・実習及び試験は予定通りにおこなう。 • 午前10時を過ぎても解除されないときは、 午後の講義・実習及び試験も休講又は延期とする。 〈大学院夜間（午後6時～午後9時）講義について〉 • 午後3時を過ぎても解除されないときは、 講義・実習及び試験も休講又は延期とする。 授業時間帯（午前9時～午後4時）に新たに発令されたとき 学部長の判断により、講義・実習及び試験の休講又は延期を決定する。
愛知県西部地域①以外で 「暴風警報」が発令された場合	その地域に在住する学生の登校は禁止する。 また、その地域での学外実習中の学生については上記に準ずる。
「大雨警報・洪水警報・波浪警報・高潮警報・大雪警報」が発令された場合	大学から連絡がない限り、平常通りとする。
「波浪特別警報、高潮特別警報、大雪特別警報、暴風雪特別警報」が発令された場合	その地域に在住する学生の登校は禁止する。 また、その地域での学外実習中の学生については「暴風警報」が発令された場合に準ずる。

3 落雷に対する注意

運動系のクラブ活動中や個人的な屋外での活動中に落雷に遭うおそれがあります。下記の落雷の性質を熟知して、早めに避難するよう心がけてください。

1. 人体への被害

- (1) 直撃雷…雷雲から直接人体へ落雷するケース。直撃を受けると約80%の人が死亡します。グラウンド、野原、山頂などの広い場所にいると落雷する可能性があります。
- (2) 側撃雷…落雷を受けた物体の近くにいる人に放電するケース。大きな木の下で雨宿りをしているときなどに起こります。雷による死傷事故は側撃雷によるものがほとんどです。

- (3) 歩幅電圧障害…落雷地点の近くで座ったり寝転んでいると、地表面を流れる電流に感電して負傷（しびれ、痛み、やけど）することがあります。
- (4) 電線や金属管を伝わる高電圧による障害…家の中にいても、雷の電流は電線や電話線を伝って流れます。落雷時に電気器具・電話器・ファックス・ガスや水道のコック等に触れていると、その電流に感電し、負傷（しびれ、痛み、やけど）することがあります。

2. 落雷による被害を防ぐには

(1) 雷の発生・接近を知ること

1) モクモクとした入道雲

2) 雷鳴…雷鳴の聞こえる範囲は約10km以内です。かすかにでも雷鳴が聞こえたら、次の雷は自分の近くに落ちる危険があるので避難してください。

3) オンライン上の気象データを確認する。

気象庁ナウキャスト（気象庁HPより） <http://www.jma.go.jp/bosai/nowc/>

雷レーダー（日本気象協会HPより） <https://tenki.jp/thunder/>

(2) 危険な場所を離れること

「グラウンド、テニスコート、ゴルフ場、屋外プール、海」は危険です。

「森や林の中、木の下の雨宿り」も危険です。

1) 雷は場所を選ばず落ちます。高いものがあればそれに落ちる可能性が高いですが、高いものがない開けた場所ではどこにでも落ちる可能性があり、大変危険です。

2) 木の下は、木への落雷による側撃雷の危険性が高くなります。

(3) 安全な場所へ避難すること

「自動車、バス、列車、飛行機、鉄筋コンクリートの建物の中、配電線・送電線の下」は安全です。

1) 丈夫な金属で囲まれている場合、落雷電流は金属を通じて大地に流れ込みます。したがって、自動車、バス、列車、飛行機の中は安全です。

2) 建物の中は直撃雷の心配がないので安全ですが、電気器具、天井、壁から1m以上離れてください。

3) 配電線・送電線の下は、それ自体電気をよく通す導体でできており、雷をひきつける避雷針と同じ役割を果たすので、4m以上離れ、しゃがんでいれば安全です。

(4) 細長いものを持たないこと

「釣竿、傘、金属バットなど」を振りかざして持つことは大変危険です。

・指輪や時計、携帯電話など、身に付いているものが落雷を引き寄せることがありません。

キャンパス案内図





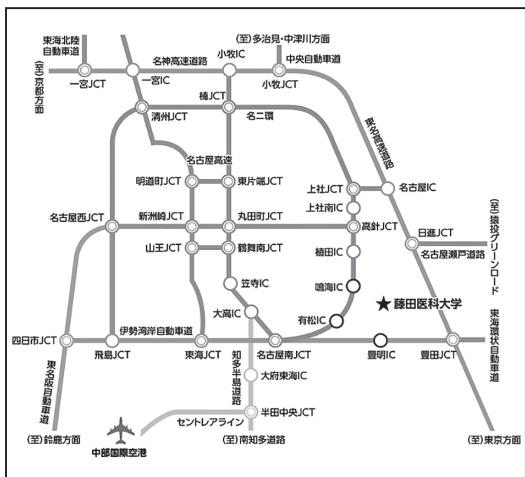
■主な施設

図書館	1
イングリッシュラウンジ	1
学生相談室	1
フジタホール500	1
地域連携教育推進センター	2
国際交流推進センター	2
IR推進センター	2
獨創一理祈念館	2
同窓会室・藤医会室	2
医学科学務課	2
一時休憩室	3
医療検査・放射線学科学務課	3
看護学科学務課	3
研究推進本部	4
学生支援課	5
ラーニングコモンズ	5
フジタホール2000	6
ダビンチ低侵襲トレーニングセンター	7
リハビリテーション学科学務課	8
地域包括ケア中核センター	9
健康管理部	11

■生活施設

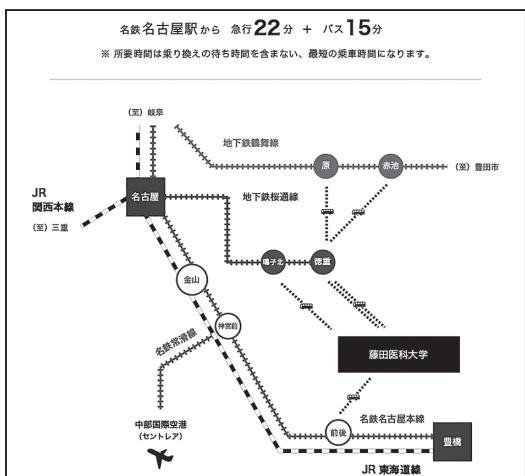
丸善書店	9
学生食堂	6
ファミリーマート	6
レストピアふじた(一般食堂)	9
藤田医科大学病院内簡易郵便局	12
キャッシュサービス (三井住友銀行ATM) (三菱UFJ銀行ATM) (岡崎信用金庫ATM)	12
ドトールコーヒー	12

藤田医科大学へのアクセス



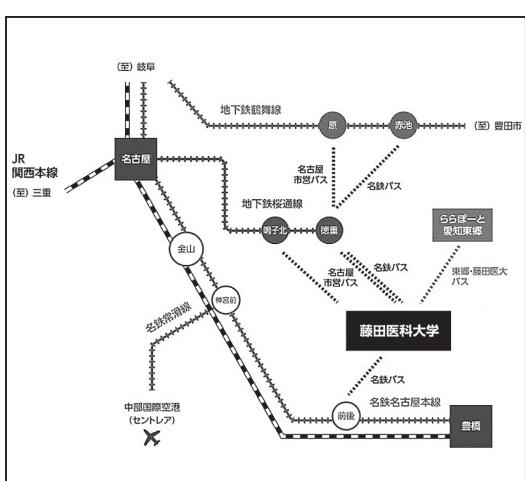
■車〈有料道路利用〉

- 名古屋第二環状自動車道「鳴海IC」から約10分、
または「有松IC」から約15分
- 伊勢湾岸自動車道「豊明IC」から約15分（東京方面からの出口）



■公共交通機関

最寄り駅は、名鉄名古屋本線「前後駅」および
名古屋市営地下鉄桜通線「徳重駅」です。



名鉄 前後駅から

- 名鉄バス乗り場①から「藤田医科大学病院」行き、
または「赤池駅（藤田医科大学病院・地下鉄徳重経由）」行きで15分

名古屋市営地下鉄 各駅から

- 桜通線「徳重」駅から、名古屋市営バス「徳重13系統」
または名鉄バスで16分
- 桜通線「鳴子北」駅から、名古屋市営バス「鳴子16系統」で26分
- 鶴舞線「原」駅から、名古屋市営バス「徳重13系統」で33分
- 鶴舞線「赤池」駅から、名鉄バスで38分

JR大高駅から

- 名古屋市営バス「緑巡回」で約40分
※ 1時間に1本の本数が少ない路線です。

ららぽーと愛知東郷から

- 「ららぽーと愛知東郷」から、直通バス「藤田医科大学病院行き」に
ご乗車ください。
※ 平日のみの運行です。

藤田医科大学 ばんたね病院へのアクセス



電車の場合

JR東海道本線「尾頭橋」駅へ。

- 名古屋駅から「岡崎・豊橋方面（普通）」で2分
 - 金山駅から「名古屋・大垣方面（普通）」で2分
- ※名鉄・地下鉄名城線金山駅から徒歩15分

バスの場合

名古屋市営バスまたは三重交通バス「尾頭橋」バス停へ。

- 名古屋駅から
名鉄バスセンター3階2番のりばから、三重交通バス「イオンモール名古屋茶屋」行き
- 金山駅から
金山バスターミナル3番のりばから、名古屋市営バス 金山21番系統「中川車庫前」「地下鉄高畠」行き、または金山23番系統「岩塚本通4丁目」「戸田荘」行き
- 高畠駅（地下鉄）から
地下鉄高畠1番のりばから、名古屋市営バス「中川巡回右回り」「中川巡回左回り」
地下鉄高畠4番のりばから、名古屋市営バス金山21番系統「金山」行き

藤田医科大学 七栗記念病院へのアクセス



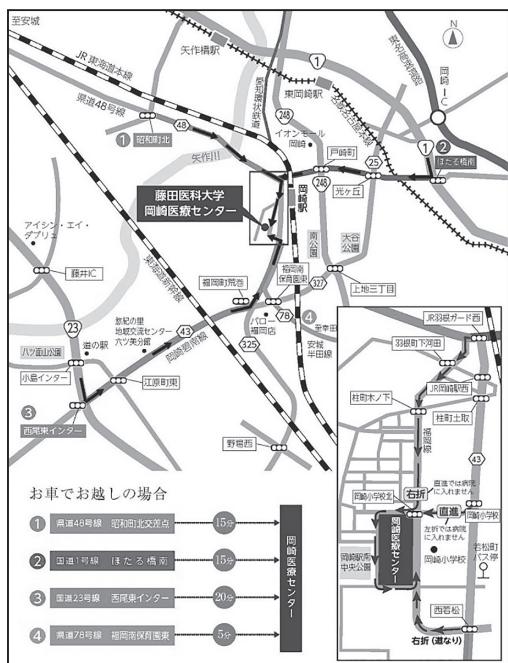
近鉄名古屋線久居駅から

「下村経由桜原車庫前行」バスに乗車し、
「七栗記念病院前」（病院の構内に入るバス）下車もしくは、
「七栗記念病院口」（病院の構内に入らないバス）下車
(下車してから徒歩5分)

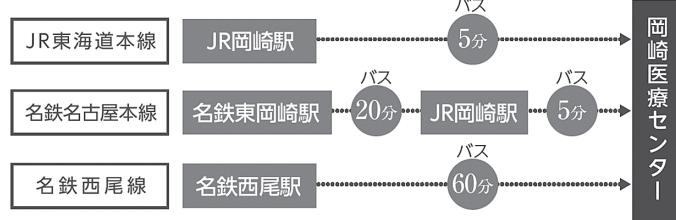
近鉄大阪線桜原温泉口駅から

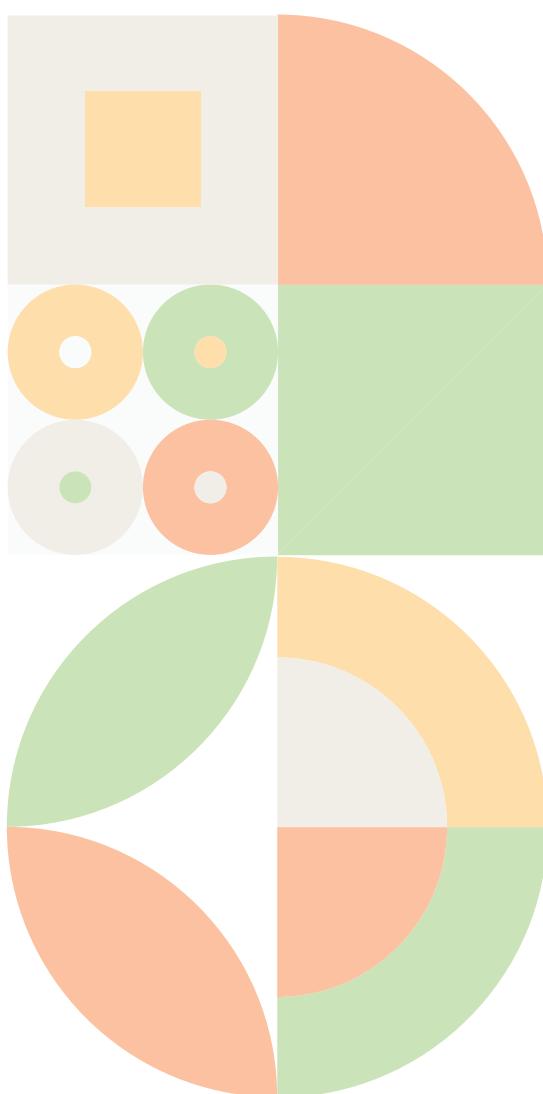
バスはなく、タクシーのみ
※大阪方面からのお越しの方は、「近鉄大阪線伊勢中川駅」にて乗り換
え「近鉄名古屋線久居駅」までお越しいただくほうが便利です。

藤田医科大学 岡崎医療センターへのアクセス



公共交通機関をご利用の場合





藤田医科大学 全学共通
FUJITA HEALTH UNIVERSITY